

総目次

公研セミナー

1963年9・10月	正田 彬	独禁法と国際競争力
1963年11月	宮下 武平	新産業秩序と体制金融
1963年12月	金沢 良雄	物価規制について
1964年1月	大熊 一郎	物価構造について
1964年2月	滝田 実	物価と賃金
1964年3月	下村 治	日本経済の成長力
1964年4月	篠原三代平	転型期の核心を掴む
1964年5月	鈴木 秀雄	外資流入の姿勢
1964年6月	向坂 正男	倍增中期手直しの問題点
1964年7月	中村 孝士	開放体制下の景気循環
1964年8月	木村 禎八郎	長期経済政策への提唱
1964年9月	神野 正雄	国際流動性と日本経済
1964年10月	大来 佐武郎	世界景気の動向
1964年11月	磯村 英一	地域開発の方向性
1964年12月	庄司 竜一郎	金融正常化の諸問題点
1965年1月	竹中 喜満太	日本の産業集中の実態と方向
1965年2月	坂本 二郎・中野 拙三	経済成長と人間尊重
1965年3月	伊藤 長生	「利潤」について
1965年4月	三木 邦男	国際通貨の展望と日本経済
1965年5月	佐橋 滋	今後の産業政策と日本経済
1965年6月	鈴木 治雄	経営について
1965年7月	前川 憲一	不況の中の財政の方向
1965年8月	金森 久雄	「新経済白書」と景気判断
1965年9月	堀越 禎三	財界は公債をどう考える
1965年10月	穴戸 駿太郎	不況後の日本経済の新ビジョン
1965年11月	湊 守篤	不況後の企業体質をどう考える
1965年12月	木内 信胤	不安に答える
1966年1月	大河内 一男	景気短期見通し
1966年2月	小坂 徳三郎	マンパワーズと日本経済への要望
1966年3月	両角 良彦	経済を持って歩こう
1966年4月	竹内 一郎	今後の産業体制と政府企業間の矛盾
1966年5月	梶浦 英夫	国際金利の上昇と日本への影響
1966年6月	井深 大	最近の設備投資の動向
1966年7月	穴戸 寿雄	アメリカ経済はどう動く
1966年8月	宮崎 義一	資本自由化と企業再編成
1966年9月	熊谷 典文	日本経済の新局面と産業政策
1966年10月	奥村 綱雄	資本自由化と国際競争力
1966年11月	山本 重信	政府と企業
1966年12月	西島 芳二	より大きな発展のために
1967年1月	小島 慶三	政治はどう動く
1967年2月	内田 忠夫	新しい経済の方向
1967年3月	北野 重雄	42年度の経済と新経済計画
1967年4月	谷村 裕・小島 英敏	経済成長と「物価」
1967年5月	青葉 翰於	資本自由化と「産業体制」
1967年6月	土屋 清	西欧における産業体制の近代化について
1967年7月	鶴見 清彦	デフレ・インフレの谷間をゆく
1967年8月	宮崎 勇	アメリカ経済を診断する
1967年9月	田中 角栄	これからの地域開発の問題点と進め方
1967年10月	大木 穆彦	ケネディ・ラウンドと日本への影響
1967年11月	村上 孝太郎	国際収支の赤字と景気動向
1967年12月	辻村 江太郎	都市再開発の問題点と景気動向
1968年1月	堀江 薫雄	日本経済外交の姿勢
1968年2月	外山 茂	財政の新しい方向
1968年3月	川又 克二	「硬直化」と今後の取組み方
1968年4月	宮沢 鉄蔵	経済成長と労働力
1968年5月	橋本 清	ポンド切り下げの後にくるもの
1968年6月	大慈 弥嘉久	こうなる今年の日本経済
1968年7月	翠川 鉄雄	ドル防衛と対日投資
1968年8月	牛場 信彦・田中 洋之助	米国輸入課徴金の日本への影響と対策
1968年9月	池内 得二	ベトナム平和とドルの将来
1968年10月	八塚 陽介	国際競争と企業再編成の方向
1968年11月	川島 博	景気動向と締め政策の是非
1968年12月	星 保夫	日本経済外交の現実と方向
1969年1月	北川 一栄	これからの内外金融の動向
1969年2月	今井 勇	物価問題への指針
1969年3月	林 栄夫	都市問題の焦点
1969年4月	佐伯 喜一	「社会資本」の不足と土地対策
1969年5月	飯野 匡	設備投資拡大と来年度の景気見通し
1969年6月	江森 盛久	情報革新と日本経済
1969年7月	野田 信夫	ニクソン政権の経済政策
1969年8月	矢野 智雄	（対日経済政策を含む）
1969年9月	小倉 武一	
1969年10月	細見 卓	
1969年11月	伊原 隆	
1969年12月	武田 豊	
1970年1月	牧野 昇	自己開発について
1970年2月	村上 茂利	新しい「産業未来図」を描く
1970年3月	内田 藤雄	これからの労働力対策
1970年4月	後藤 達郎	マルク切上げ後のドイツ経済の問題点とその方向
1970年5月	松本 俊一	アメリカの景気後退と日本経済への影響
1970年6月	藤井 立・八幡 輝雄	中国問題への認識と展望
1970年7月	徳永 久次	日中交渉のなから
1970年8月	嘉治 元郎	不況は果たしてくるのか
1970年9月	芦矢 栄之助	これからの景気のゆくえ
1970年10月	鳩山 威一郎	環境問題とGNP
1970年11月	山中 宏	これからの国際金融情勢と円切り上げ
1970年12月	小島 英敏・斎藤 倉之助	来年度の財政政策の方向とポイント
1971年1月	宮崎 弘道	世界的インフレの方向と影響
1971年2月	下村 治	「71年」の世界経済はどう動く
1971年3月	下河辺 淳	「71年」の経済成長率をどうみる
1971年4月	武者 小路公秀・津和 義昌	「71年」の経済成長率をどうみる
1971年5月	相沢 英之・吉田 達雄	これからの「立地」をどう進めるか
1971年6月	内野 達郎	新しい米中関係の展望
1971年7月	柏木 雄介	高福祉経済において社会資本をどう充実させ得るか
1971年8月	石川 滋	日本経済の成果と問題点
1971年9月		黒字累積と円のゆくえ
1971年10月		中国経済の実力
1971年11月		
1971年12月		
1972年1月		
1972年2月		
1972年3月		
1972年4月		
1972年5月		
1972年6月		
1972年7月		
1972年8月		
1972年9月		
1972年10月		
1972年11月		
1972年12月		
1973年1月		
1973年2月		
1973年3月		
1973年4月		
1973年5月		
1973年6月		
1973年7月		
1973年8月		
1973年9月		
1973年10月		
1973年11月		
1973年12月		
1974年1月		
1974年2月		
1974年3月		
1974年4月		
1974年5月		
1974年6月		
1974年7月		
1974年8月		
1974年9月		
1974年10月		
1974年11月		
1974年12月		
1975年1月		
1975年2月		
1975年3月		
1975年4月		
1975年5月		
1975年6月		
1975年7月		
1975年8月		
1975年9月		
1975年10月		
1975年11月		
1975年12月		
1976年1月		
1976年2月		
1976年3月		
1976年4月		
1976年5月		
1976年6月		
1976年7月		
1976年8月		
1976年9月		
1976年10月		
1976年11月		
1976年12月		
1977年1月		
1977年2月		
1977年3月		
1977年4月		
1977年5月		
1977年6月		
1977年7月		
1977年8月		
1977年9月		
1977年10月		
1977年11月		
1977年12月		
1978年1月		
1978年2月		
1978年3月		
1978年4月		
1978年5月		
1978年6月		
1978年7月		
1978年8月		
1978年9月		
1978年10月		
1978年11月		
1978年12月		
1979年1月		
1979年2月		
1979年3月		
1979年4月		
1979年5月		
1979年6月		
1979年7月		
1979年8月		
1979年9月		
1979年10月		
1979年11月		
1979年12月		
1980年1月		
1980年2月		
1980年3月		
1980年4月		
1980年5月		
1980年6月		
1980年7月		
1980年8月		
1980年9月		
1980年10月		
1980年11月		
1980年12月		
1981年1月		
1981年2月		
1981年3月		
1981年4月		
1981年5月		
1981年6月		
1981年7月		
1981年8月		
1981年9月		
1981年10月		
1981年11月		
1981年12月		
1982年1月		
1982年2月		
1982年3月		
1982年4月		
1982年5月		
1982年6月		
1982年7月		
1982年8月		
1982年9月		
1982年10月		
1982年11月		
1982年12月		
1983年1月		
1983年2月		
1983年3月		
1983年4月		
1983年5月		
1983年6月		
1983年7月		
1983年8月		
1983年9月		
1983年10月		
1983年11月		
1983年12月		
1984年1月		
1984年2月		
1984年3月		
1984年4月		
1984年5月		
1984年6月		
1984年7月		
1984年8月		
1984年9月		
1984年10月		
1984年11月		
1984年12月		
1985年1月		
1985年2月		
1985年3月		
1985年4月		
1985年5月		
1985年6月		
1985年7月		
1985年8月		
1985年9月		
1985年10月		
1985年11月		
1985年12月		
1986年1月		
1986年2月		
1986年3月		
1986年4月		
1986年5月		
1986年6月		
1986年7月		
1986年8月		
1986年9月		
1986年10月		
1986年11月		
1986年12月		
1987年1月		
1987年2月		
1987年3月		
1987年4月		
1987年5月		
1987年6月		
1987年7月		
1987年8月		
1987年9月		
1987年10月		
1987年11月		
1987年12月		
1988年1月		
1988年2月		
1988年3月		
1988年4月		
1988年5月		
1988年6月		
1988年7月		
1988年8月		
1988年9月		
1988年10月		
1988年11月		
1988年12月		
1989年1月		
1989年2月		
1989年3月		
1989年4月		
1989年5月		
1989年6月		
1989年7月		
1989年8月		
1989年9月		
1989年10月		
1989年11月		
1989年12月		
1990年1月		
1990年2月		
1990年3月		
1990年4月		
1990年5月		
1990年6月		
1990年7月		
1990年8月		
1990年9月		
1990年10月		
1990年11月		
1990年12月		
1991年1月		
1991年2月		
1991年3月		
1991年4月		
1991年5月		
1991年6月		
1991年7月		
1991年8月		
1991年9月		
1991年10月		
1991年11月		
1991年12月		
1992年1月		
1992年2月		
1992年3月		
1992年4月		
1992年5月		
1992年6月		
1992年7月		
1992年8月		
1992年9月		
1992年10月		
1992年11月		
1992年12月		
1993年1月		
1993年2月		
1993年3月		
1993年4月		
1993年5月		
1993年6月		
1993年7月		
1993年8月		
1993年9月		
1993年10月		
1993年11月		
1993年12月		
1994年1月		
1994年2月		
1994年3月		
1994年4月		
1994年5月		
1994年6月		
1994年7月		
1994年8月		
1994年9月		
1994年10月		
1994年11月		
1994年12月		
1995年1月		
1995年2月		
1995年3月		
1995年4月		
1995年5月		
1995年6月		
1995年7月		
1995年8月		
1995年9月		
1995年10月		
1995年11月		
1995年12月		
1996年1月		
1996年2月		
1996年3月		
1996年4月		
1996年5月		
1996年6月		
1996年7月		
1996年8月		
1996年9月		
1996年10月		
1996年11月		
1996年12月		
1997年1月		
1997年2月		
1997年3月		
1997年4月		
1997年5月		
1997年6月		
1997年7月		
1997年8月		
1997年9月		
1997年10月		
1997年11月		
1997年12月		
1998年1月		
1998年2月		
1998年3月		
1998年4月		
1998年5月		
1998年6月		
1998年7月		
1998年8月		
1998年9月		
1998年10月		
1998年11月		
1998年12月		
1999年1月		
1999年2月		
1999年3月		
1999年4月		
1999年5月		
1999年6月		
1999年7月		
1999年8月		
1999年9月		
1999年10月		
1999年11月		
1999年12月		
2000年1月		
2000年2月		
2000年3月		
2000年4月		
2000年5月		
2000年6月		
2000年7月		
2000年8月		
2000年9月		
2000年10月		
2000年11月		
2000年12月		
2001年1月		
2001年2月		
2001年3月		
2001年4月		
2		

1980年1月	田中 敬	五十五年度予算のポイントと財政再建	1980年1月	田中 敬	五十五年度予算のポイントと財政再建
2月	山田敬三郎	エネルギー情勢の見通しと日本の対応	2月	山田敬三郎	エネルギー情勢の見通しと日本の対応
3月	佐々木良作	八十年代の政治課題と展望	3月	佐々木良作	八十年代の政治課題と展望
4月	宇佐美忠信	安定成長下の賃金・雇用・定年―変質する春闘の中で	4月	宇佐美忠信	安定成長下の賃金・雇用・定年―変質する春闘の中で
5月	園田 直	中東情勢とエネルギー外交	5月	園田 直	中東情勢とエネルギー外交
6月	矢野俊比古	阿達哲雄 物価情勢と景気見通し	6月	矢野俊比古	阿達哲雄 物価情勢と景気見通し
7月	藤井直樹	八十年代 政治経済と日米関係の指針	7月	藤井直樹	八十年代 政治経済と日米関係の指針
8月	河野 洋平	最近の景気動向と経済政策	8月	河野 洋平	最近の景気動向と経済政策
9月	河本 敏夫	これからの公共事業と国民生活	9月	河本 敏夫	これからの公共事業と国民生活
10月	粟屋 敏信	これからの科学技術行政と原子力	10月	粟屋 敏信	これからの科学技術行政と原子力
11月	中川 一郎	エネルギー政策と内外情勢	11月	中川 一郎	エネルギー政策と内外情勢
12月	森山 信吾	81の世界経済と日米・日欧関係	12月	森山 信吾	81の世界経済と日米・日欧関係
1981年1月	深田 宏	財政事情と五十六年度予算のポイント	1981年1月	深田 宏	財政事情と五十六年度予算のポイント
2月	松下 康雄	レーガンの政策と日米経済	2月	松下 康雄	レーガンの政策と日米経済
3月	岩佐 凱美	最近の景気動向と金融情勢	3月	岩佐 凱美	最近の景気動向と金融情勢
4月	澄田 智	世界情勢と日本の対応	4月	澄田 智	世界情勢と日本の対応
5月	法眼 晋作	これからの米・ソ関係と日本	5月	法眼 晋作	これからの米・ソ関係と日本
6月	小金 芳弘	最新中東情勢とエネルギー	6月	小金 芳弘	最新中東情勢とエネルギー
7月	小山 茂樹	現代政治の課題と展望	7月	小山 茂樹	現代政治の課題と展望
8月	竹下 登	財政再建下の公共企業体のあり方	8月	竹下 登	財政再建下の公共企業体のあり方
9月	高木 文雄	内外経済情勢と産業政策	9月	高木 文雄	内外経済情勢と産業政策
10月	藤原 一郎	最近の国際金融情勢 ―アメリカの高金利を中心として	10月	藤原 一郎	最近の国際金融情勢 ―アメリカの高金利を中心として
11月	加藤 隆司	財政再建と五十七年度予算のポイント	11月	加藤 隆司	財政再建と五十七年度予算のポイント
12月	高橋 元	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応	12月	高橋 元	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
1982年1月	牛場 信彦	五十七年の日本経済を展望する	1982年1月	牛場 信彦	五十七年の日本経済を展望する
2月	金森 久雄	最近の石油情勢とエネルギー政策	2月	金森 久雄	最近の石油情勢とエネルギー政策
3月	小松 国男	82春闘とその政策課題	3月	小松 国男	82春闘とその政策課題
4月	佐々木孝男	経済整合性と賃金・雇用	4月	佐々木孝男	経済整合性と賃金・雇用
5月	谷村 昭一	21世紀日本の経済社会長期展望	5月	谷村 昭一	21世紀日本の経済社会長期展望
6月	稲山 嘉寛	日本経済の安定を求めて	6月	稲山 嘉寛	日本経済の安定を求めて
7月	山野 正登	科学技術活動の将来と課題	7月	山野 正登	科学技術活動の将来と課題
8月	大場智満・鳴沢宏英	高金利下のアメリカ経済	8月	大場智満・鳴沢宏英	高金利下のアメリカ経済
9月	金丸 信	これからの政局と政治倫理	9月	金丸 信	これからの政局と政治倫理
10月	井川 博	日本経済の動向と景気対策	10月	井川 博	日本経済の動向と景気対策
11月	J・C・アベグレン	日米経済環境と企業経営	11月	J・C・アベグレン	日米経済環境と企業経営
12月	橋川 誠一	独禁法の理念と日本経済の活力	12月	橋川 誠一	独禁法の理念と日本経済の活力
1983年1月	山口 光秀	五十八年度予算のポイント	1983年1月	山口 光秀	五十八年度予算のポイント
2月	杉山 和男	日本経済の課題と通商政策	2月	杉山 和男	日本経済の課題と通商政策
3月	村田 良平	世界経済の現状と日本外交	3月	村田 良平	世界経済の現状と日本外交
4月	亀井 正夫	行政改革と日本経済	4月	亀井 正夫	行政改革と日本経済
5月	豊島 格	原油値下げ後のエネルギー情勢	5月	豊島 格	原油値下げ後のエネルギー情勢
6月	G・R・ペーカー	これからの日米経済関係	6月	G・R・ペーカー	これからの日米経済関係
7月	谷村 昭一	一九八〇年代経済社会の展望と指針	7月	谷村 昭一	一九八〇年代経済社会の展望と指針
8月	関本 忠弘	情報社会の進展と技術革新の役割	8月	関本 忠弘	情報社会の進展と技術革新の役割
9月	渡辺 喜一	国際金融情勢と通貨	9月	渡辺 喜一	国際金融情勢と通貨
10月	井上 薫	景気の現状分析と見通し	10月	井上 薫	景気の現状分析と見通し
11月	天谷 直弘	84年の世界経済と日米・日欧関係	11月	天谷 直弘	84年の世界経済と日米・日欧関係
12月	真藤 恒	情報技術革新と経済社会	12月	真藤 恒	情報技術革新と経済社会
1984年1月	田中誠一郎	五十九年度の経済見通しと政策のポイント	1984年1月	田中誠一郎	五十九年度の経済見通しと政策のポイント
2月	平沢 貞昭	五十九年度予算のポイント	2月	平沢 貞昭	五十九年度予算のポイント
3月	本野 盛幸	わが国をめぐる国際経済情勢	3月	本野 盛幸	わが国をめぐる国際経済情勢
4月	B・モリトル	西ドイツの経済政策	4月	B・モリトル	西ドイツの経済政策
5月	佐上 武弘	金融自由化と円・ドル問題	5月	佐上 武弘	金融自由化と円・ドル問題
6月	小此木彦三郎	山田勝久	6月	小此木彦三郎	山田勝久
7月	高秀 秀信	これからの通商産業政策	7月	高秀 秀信	これからの通商産業政策
8月	藤尾 正行	今後の政局と政策課題	8月	藤尾 正行	今後の政局と政策課題
9月	福田 幸弘	これからの税制と執行	9月	福田 幸弘	これからの税制と執行
10月	守屋 友一	景気の現状と中期的課題	10月	守屋 友一	景気の現状と中期的課題
11月	若杉 和夫	情報化社会と第二電電	11月	若杉 和夫	情報化社会と第二電電
12月	森山 信吾	六十年年度予算のポイント	12月	森山 信吾	六十年年度予算のポイント
1985年1月	的場 順三	国際金融情勢と通貨	1985年1月	的場 順三	国際金融情勢と通貨
2月	大場 智満	最近の石油情勢とエネルギー政策	2月	大場 智満	最近の石油情勢とエネルギー政策
3月	柴田 益男	私が見てきた中国	3月	柴田 益男	私が見てきた中国
4月	松尾泰一郎	日中経済交流の進め方	4月	松尾泰一郎	日中経済交流の進め方
5月	手島 治司	ボン・サミットとこれからの経済外交	5月	手島 治司	ボン・サミットとこれからの経済外交
6月	尾崎 護	税制改革の視点と間接税	6月	尾崎 護	税制改革の視点と間接税
7月	豊 昭	鉄鋼業の展望と日本経済	7月	豊 昭	鉄鋼業の展望と日本経済
8月	西垣 昭	六十三年度予算のポイント	8月	西垣 昭	六十三年度予算のポイント
9月	高木 文雄	これからの都市再開発を考える	9月	高木 文雄	これからの都市再開発を考える
10月	江崎 真澄	対外経済問題と政局	10月	江崎 真澄	対外経済問題と政局
11月	金森 久雄	日本経済の中期展望	11月	金森 久雄	日本経済の中期展望
12月	高秀 秀信	スローダウンにどう対応するか	12月	高秀 秀信	スローダウンにどう対応するか
1986年1月	諸井 虔	これからの公共事業と民間活力	1986年1月	諸井 虔	これからの公共事業と民間活力
2月	星野 進保	経営の創造	2月	星野 進保	経営の創造
3月	國廣 道彦	21世紀へ向けての国土開発と四全総	3月	國廣 道彦	21世紀へ向けての国土開発と四全総
4月	小粥 正巳	86年のアメリカ経済と日本の経済外交	4月	小粥 正巳	86年のアメリカ経済と日本の経済外交
5月	谷村 昭一	61年度予算のポイント	5月	谷村 昭一	61年度予算のポイント
6月	宮崎 弘道	61年の経済見通しと政策	6月	宮崎 弘道	61年の経済見通しと政策
7月	野々内 隆	ヨーロッパの経済動向と日米欧関係	7月	野々内 隆	ヨーロッパの経済動向と日米欧関係
8月	渡辺 喜一	石油価格の動向とエネルギー政策	8月	渡辺 喜一	石油価格の動向とエネルギー政策
9月	香西 泰・水谷 研治	最近の金融情勢と通貨	9月	香西 泰・水谷 研治	最近の金融情勢と通貨
10月	岩田 式夫	下期の景気見通しと政策のポイント	10月	岩田 式夫	下期の景気見通しと政策のポイント
11月	福川 伸次	私の経済観 ―企業をとりまく環境と税制改革	11月	福川 伸次	私の経済観 ―企業をとりまく環境と税制改革
12月	H・コッタツイ	経済構造をめぐる構想と対応策	12月	H・コッタツイ	経済構造をめぐる構想と対応策
1987年1月	大竹 宏	日英関係の回顧と将来	1987年1月	大竹 宏	日英関係の回顧と将来
2月	大場 智満	景気状況と政策のポイント	2月	大場 智満	景気状況と政策のポイント
3月	石川 六郎	国際金融・通貨情勢とアメリカ経済	3月	石川 六郎	国際金融・通貨情勢とアメリカ経済
4月	G・フィールズ	大都市問題と民間活力	4月	G・フィールズ	大都市問題と民間活力
5月	飯田庸太郎	国際経済環境と転機にたつ	5月	飯田庸太郎	国際経済環境と転機にたつ
6月	池田 迪彦	日本の経営	6月	池田 迪彦	日本の経営
7月	細見 卓	六十二年度予算のポイント	7月	細見 卓	六十二年度予算のポイント
8月	井上 章平	これからの日米経済と企業経営	8月	井上 章平	これからの日米経済と企業経営
9月	吉富 勝	重厚長大産業の未来	9月	吉富 勝	重厚長大産業の未来
10月	那須 翔	内外経済情勢と経済外交の課題	10月	那須 翔	内外経済情勢と経済外交の課題
11月	大河原良雄	構造調整と通貨見通し	11月	大河原良雄	構造調整と通貨見通し
12月	濱岡 平一	建設行政の長期展望	12月	濱岡 平一	建設行政の長期展望
1988年1月	尾崎 護	世界経済の現状と政策調整	1988年1月	尾崎 護	世界経済の現状と政策調整
2月	武田 豊	21世紀へ向けての企業経営の展開	2月	武田 豊	21世紀へ向けての企業経営の展開
3月	西垣 昭	これからの日米外交の課題	3月	西垣 昭	これからの日米外交の課題
4月	高木 文雄	最近のエネルギー情勢と政策のポイント	4月	高木 文雄	最近のエネルギー情勢と政策のポイント
5月	尾崎 護	このからの日米外交の課題	5月	尾崎 護	このからの日米外交の課題
6月	武田 豊	最近のエネルギー情勢と政策のポイント	6月	武田 豊	最近のエネルギー情勢と政策のポイント
7月	西垣 昭	このからの日米外交の課題	7月	西垣 昭	このからの日米外交の課題
8月	高木 文雄	最近のエネルギー情勢と政策のポイント	8月	高木 文雄	最近のエネルギー情勢と政策のポイント

1971年10月	両角 良彦	日米経済とこれからの産業政策	3月	市川 誠	これからの労働運動の考え方と進め方	1977年1月	馬場 正雄	77年日本経済の課題
11月	篠原三代平	日本経済が転換すべき方向	4月	小松勇五郎・宮崎勇	エネルギー高価格時代の産業構造	2月	倉成 正	これからの経済運営のポイント
12月	鹿野 義夫	不況の72年の日本、その経済政策はこうなる	5月	内田忠夫・吉田太郎一	インフレと経済政策	3月	堀 昌雄	野党が診断する日本経済
1972年1月	竹内一郎・外山弘	こうなる72年の世界経済	6月	高木 文雄	法人税の新しい考え方	4月	木村 俊夫	世界経済の動向と外交政策の課題
2月	山田春・今井勇・長島忠雄	今年の景気はいつ、どこまで回復する	7月	鈴木 秀雄	国際通貨問題と世界経済	5月	松野 頼三	民主政治の危機と再生
3月	高木文雄・宇田川璋仁	これからの経済運営と税制の方向	8月	保利 茂	政党の近代化とその展望	6月	橋本 利一	エネルギーをめぐる内外情勢と課題
4月	林信太郎・渡辺康	多国籍企業の実態と、日本へのこれからの影響	9月	後藤新一・宮崎弘道	危機の世界経済を予測する	7月	岩田幸基・田島敏弘	設備投資の動向と景気見通し
5月	熊谷典文・正田彬	これからの経済運営と独禁法	10月	宮崎 仁	長期的視野にたつた新しい経済計画の考え方	8月	石田博英・細野正	安定成長と雇用
6月	藤井丙牛・力石定一	高福祉社会と企業	11月	竹内 道雄	日本経済の現状と新予算のポイント	9月	濃野 滋	安定成長下の産業政策
7月	大槻文平・正村公宏	これからの労働問題	12月	正田彬・平賀潤二	独禁法改正と日本経済	10月	増田 実	国際環境の変化と通商政策
8月	中曽根康弘	これからの新しい経済運営	1月	正田彬・平賀潤二	独禁法改正と日本経済	11月	太田 薫	政治体質の改善と国民生活
9月	宇沢 弘文	新しい経済	2月	増田 実	これからのエネルギー政策	12月	長岡 実	来年度予算と財政政策のポイント
10月	岩佐 凱美	アメリカ・中国・日本	3月	渡辺 健二	これからの日本経済と労働政策	1978年1月	佐々木 直	日本経済の現状と見通し
11月	高橋 弘篤	長期国土建設の考えかた	4月	橋本栄一・原 信	フォードの経済政策とドル	2月	麻生 良方	78年国民生活と政治の使命
12月	矢野 智雄	ニッポンの経済はこうかわる	5月	中村貢・鳩山威一郎	インフレと公共料金政策	3月	中村 隆英	日本経済の成長力と内外バランス
1973年1月	館龍一郎・水上達三	73年の課題	6月	篠原三代平	インフレと公共料金政策	4月	細見 卓	円高と世界経済の見通し
2月	金森久雄・宮崎一雄	対外均衡と対内均衡	7月	宮崎 仁	日本経済の国際的転換点	5月	並木 信義	景気回復の基調をさぐる
3月	井上保・出光計助・間淵直三	これからのエネルギー問題	8月	橋口 収	あたらしい国土政策	6月	藤岡真佐夫	アメリカ経済と日本の対応
4月	宮崎弘道・清水嘉治	アメリカの世界経済政策	9月	内山良正・島野卓爾	当面の日本経済の見通しと国際経済	7月	下河辺 淳	国土開発の現状と将来
5月	安川七郎・神田延祐	最近の金融問題とその性格	10月	木村 武雄	保守政治の課題と展望	8月	河本 敏夫	景気見通しと経済運営
6月	友納武人・富永健一	地域社会と企業	11月	大塩洋一郎	これからの日本経済と公共事業	9月	小坂善太郎	日中条約と内政・外交の課題
7月	梅本純正・酒井正利・北野利信	新しい社会と企業のあり方	12月	辻敬一・岩崎隆	五十一年度の日本経済と財政	10月	矢野俊比古	八十年代ビジョンと産業政策
8月	小島英敏・後藤新一・清田晋亮	インフレ見通しと国民生活	1976年1月	稲村 光一	76年世界経済の見通し	11月	岩田幸基・小島正興	国際収支動向と景気見通し
9月	田実 涉	日中通商関係のすすめ方	2月	金森 久雄	76年の景気動向	12月	長岡 実	五十四年度予算と財政再建
10月	山形 栄治	新しいエネルギー政策の方向	3月	尾本 信平	これからの企業経営と備蓄問題	1979年1月	天谷 直弘	エネルギー政策の課題
11月	橋口 収	49年度予算の方向とポイント	4月	宇都宮徳馬	民主政治の崩壊とその再建	2月	喜多村治雄	「新経済社会七カ年計画」のポイント
12月	並木信義・長島忠雄・服部盛栄	エネルギー問題と産業政策	5月	小島 英敏	日本経済と物価問題	3月	稲山 嘉寛	日中経済の現状と将来
1974年1月	両角良彦・館龍一郎・内野達郎	74年の経済見通し	6月	増田 実	エネルギー政策の基本方向	4月	宮田 義二	八十年代労働運動の課題と動向
2月	細見卓・木村禮八郎	74年の国際経済の動向	7月	下河辺淳・小谷善四郎	国土利用の現状と長期政策	5月	細見 卓	世界経済見通しと通貨通商問題
			8月	天谷 直弘	構造危機と日本の産業政策	6月	牛場 信彦	国際協調と日本の役割
			9月	河野 謙三	民主政治の危機を打開するため	7月	佐々木孝男	新経済環境下の成長と物価
			10月	富塚 三夫	これからの労使関係の方向	8月	宮崎 弘道	八十年代の世界経済と日本外交の指針
			11月	藤岡真佐夫	「円問題」と日本経済	9月	岩田 式夫	これからの経営のポイントと理念
			12月	吉瀬 維哉	五十二年度予算のポイント	10月	小島英敏・中林貞男	インフレ要因と国民生活
						11月	武貞岩夫・新飯田宏	スローダウンするアメリカ経済と国際通貨
						12月	金森 久雄	五十五年の日本経済とその活力

公研セミナー

1995年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	6月	稲葉 興作	21世紀の日本の姿 ―技術、経済、社会を展望する	3月	黒田 東彦	二〇〇〇年の世界経済と通貨金融システム
2月	武藤 敏郎	平成七年度予算のポイント	7月	渡辺 修	日本経済の現状と経済構造改革	4月	小林陽太郎	経済活性化と21世紀の経営
3月	武富 将	今回の不況が教えるもの	8月	野中 広務	政治の理念・政局のポイント	5月	十市 勉	21世紀のエネルギー情勢と日本の課題
4月	行天 豊雄	九五五年の世界経済と金融・通貨情勢	9月	小倉 和夫	サミット後の世界経済と日本の課題	6月	原田 和明	日本経済の回復は本物か
5月	西澤 潤一	技術立国日本の将来	10月	大来 洋一	「景気低迷」を検証する	7月	月尾 嘉男	―グローバルゼーションと情報戦争
6月	L・A・チジョーフ	ロシアの現状とロ日関係	11月	佐藤 文夫	情報通信革命と企業経営	8月	八代 尚宏	少子高齢化と社会保障改革
7月	細川 恒	WTO体制下の通商政策と日米関係	12月	内海 孚	国際通貨・金融不安と日本経済	9月	野上 義二	沖縄サミットと内外経済の課題
8月	T・F・ジョルダン	米ビジネスマンが見た日本経済	1998年1月	賀来龍三郎	日本の新しい進路	10月	石原 伸晃	政治は変わる
9月	加藤 紘一	・日本企業 これからの政局と政策課題	2月	細川 興一	―平成十年度予算をめぐる	11月	藤原 正彦	日本人への警鐘
10月	船田 元	政局の焦点と政治課題	3月	A・ボーjis	ヨーロッパから見たアジア・日本危機	12月	河野 博文	21世紀のエネルギーを考える
11月	藤井 治芳	公共事業「新五カ年計画」と都市づくりのビジョン	4月	石 弘光	日本経済の現状と財政・金融政策	2001年1月	齋藤精一郎	日本経済のゆくえ
12月	清家 篤	高齢化時代の雇用・賃金 ―新しい経済社会システムを考える	5月	近藤 茂夫	多軸型国土構造のビジョン ―新全国総合開発計画のポイント	2月	丹呉 泰健	平成十三年度予算のポイント
1996年1月	土志田征一	新経済計画のポイント	6月	八城 政基	蘇るか日本経済・日本企業	3月	寺島 実郎	日本再生の指針
2月	林 正和	平成八年度予算と財政の現状	7月	稲川 泰弘	長期エネルギー需給見通しと政策課題	4月	高橋 進	「景気再下降説」をどう見るか
3月	赤羽 隆夫	景気の方行を探索	8月	G・S・フクシマ	悩める日本への提言	5月	常盤 文克	質の経営・わが経営
4月	江崎 格	これからのエネルギー政策と原子力	9月	嶋中 雄二	景気の状態と展望	6月	岩見 隆夫	政治はこう変わる
5月	椎名 武雄	経済の再活性化に向けて	10月	鷲尾 悦也	いまの経済環境と賃金・雇用問題	7月	M・G・モンターニュ	国際化時代の日仏関係
6月	牧野 力	21世紀に向けた産業政策と構造改革	11月	大場 智満	国際金融情勢と世界経済	8月	岩田 一政	経済・財政の「骨太の方針」
7月	栗山 尚一	これからの日米関係と外交の課題	12月	堀田 正明	日本経済の再生と税制	9月	石川 薫	新世紀の世界経済
8月	鳩山由紀夫	新しい政治潮流の創造に向けて	1999年1月	堀田 力	高齢化時代をどう生きる	10月	渡辺 喜美	小泉改革と日本の政治のゆくえ
9月	諸井 虔	規制緩和・地方分権をどう推進する	2月	坂田 篤郎	平成十一年度予算と財政問題	11月	小川 和久	国際テロの教訓と危機管理
10月	隅谷三喜男	高齢化時代をどう生きる	3月	塩谷 隆英	景気の現状と展望	12月	藤田紘一郎	自然界の逆襲が始まった！
11月	糠谷 真平	景気の減速はあるか ―これからの日本経済を展望する	4月	原口 幸市	九九年の世界経済と経済外交の主要課題	2002年1月	佐々木 毅	日本政治の「国際競争力」
12月	三田 勝茂	21世紀に向けての企業経営	5月	福井 俊彦	内外経済情勢の展望	2月	津田 廣喜	平成十四年度予算のポイント
1997年1月	江尻宏一郎	今後の自由主義経済の展望	6月	K・カルダー	日米関係の現状と展望	3月	笹森 清	構造改革と雇用問題
2月	溝口善兵衛	平成九年度予算と財政の現状	7月	亀井 静香	点 これからの政策課題と政局の焦点	4月	岩田規久男	デフレからいかに脱却するか
3月	荒木 浩	21世紀の日本の経済社会と電気事業	8月	清家 篤	生涯現役社会の条件	5月	太田 宏次	電気事業の自由化を考える
4月	渡辺 利夫	東アジア経済の新潮流を読む	9月	中名生 隆	―新十カ年計画のポイント	6月	畑村洋太郎	「失敗学」への招待
5月	伴 襄	公共事業のあり方と建設行政	10月	伊豆見 元	朝鮮半島情勢と日本の対応	7月	片山 善博	―日本の企業・技術・教育を検証する
			11月	北瀬格太郎	産業競争力の再生に向けて			―鳥取県の実践
			12月	竹中 平蔵	日本経済の新展開			
			2000年1月	武藤 敏郎	平成十二年度予算と財政			

1988年4月	赤羽 隆夫	六十三年の景気見通し ― シヤ ーロキアン景気探偵はこうみる 建設行政の諸問題
5月	高橋 進	― 市場参入問題を含めて
6月	黒田眞／J・C・アベグレン	日米通商協定の行方
7月	星野 進保	経済運営五カ年計画のポイント
8月	牛尾 治朗	国際化時代の企業経営
9月	岡崎 久彦	日米関係の再構築と外交課題
10月	鎌田 吉郎	これからのエネルギー政策と原子力
11月	J・ホワイトヘッド	これからの日欧関係を考える
12月	黒沢 洋	― EC統合問題を含めて
1989年1月	佐藤 嘉恭	内外金融情勢と景気見通し
2月	篠沢 恭助	89年のアメリカ経済と日米関係
3月	進藤 貞和	平成元年度予算のポイント
4月	杉山 弘	二十一世紀へ向けての企業活性化と人材活用
5月	J・キャッシュマン	内外経済動向と通商政策
6月	亀井 正夫	欧州への企業進出と投資摩擦
7月	A・ファンアフト	政治・経済・社会改革の指針
8月	水谷研治・吉田春樹	92 EC統合と日・EC関係
9月	内海 孚	最近の産業動向と景気見通し
10月	田川誠一・菅直人	― 好調景気の転換点をさぐる 内外金融情勢と通貨 党連合への道
11月	山本 雅司	― 国民の審判にどう応える エネルギーの長期需給見通しと原子力
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1990年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	― 東・西社会主義国の変革の中で
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化 日米構造協議とこれからの通商政策
7月	J・ズムワルト	構造協議とこれからの日米経済関係
8月	林 貞行	サミット後の世界経済情勢と日本
9月	真嶋 一男	公共投資十カ年計画の基本理念
10月	鳴澤 宏英	国際金融情勢と景気見通し
11月	緒方謙二郎	― 中東・東欧・アフリカ経済とインフレーション
12月	牛島 俊明	中東情勢とエネルギー政策
1991年1月	金森 久雄	中東危機と国際石油情勢
2月	藤井 威	91年の経済展望
3月	佐藤 経明	― 景気は転換点を迎えた？ 平成三年度予算のポイント
4月	牟田口義郎・鴨 武彦	ソ連・東欧の経済再建と改革のシナリオ ― ベレストロイカへの行方
5月	安原 正	紛争後の中東問題と世界政治の新構図
6月	鹿取 泰衛	地球環境問題と日本の対応
7月	大須 敏生	ゴルバチョフ来日後の日ソ関係
8月	G・クラーク	最近の景気動向と金融政策
9月	天野 万利	― 誤解される日本人 国際化の中の日本の進路と企業の役割
10月	猪口 孝	サミット後の世界経済と日本
11月	富金原俊二	政変後のソ連と国際政治の動向
12月	棚橋 裕治	地球時代の世界と日本 ― 経済審議会報告「二〇一〇年への選択」より
1992年1月	勝村 坦郎	国際化時代の通商産業政策
2月	小村 武	― 当面する諸問題 九二年の日本経済を展望する
3月	松永 信雄	― 安定成長への移行は可能か 平成四年度予算のポイント
4月	赤羽 隆夫	日米関係の新たな発展に向けて
5月	諸井 虔	― その課題と対応 景気の現状とその転換点をさぐる
6月	山本 貞一	国際化時代の企業ビヘイビア
7月	G・S・フクシマ	― 経営理念とその改革に向けて 資源・エネルギー・環境 CIIS・東欧エネルギー事情を含めて
8月	長瀬 要石	日本の経済構造と日米摩擦
9月	松永亀三郎	生活大國五カ年計画の七つのポイント
10月	松浦晃一郎	地域の活性化と21世紀の日本
11月	佐和 隆光	ミューヘン・サミット後の世界経済と日本
12月	青井 舒一	「平成不況」の現状とその処方箋
1993年1月	富金原俊二	経済環境と企業経営の指針
2月	涌井 洋治	景気低迷の脱出のシナリオ
3月	久米 豊	― 一九九三年の日本経済を展望する
4月	棚橋 祐治	平成五年度予算のポイント
5月	三谷 浩	21世紀へ向けての企業経営と日本の針路
6月	島田 晴雄	最近の景気動向と通商産業政策
7月	橋口 収	― クリントン政権下の日米関係 建設行政の現状と課題
8月	千野 忠男	「日本の経営」の転換すべき方向
9月	亀井 正夫	― 企業の社会的責任と労働問題 地域の活性化と日本経済
10月	田中 努	― 地方から見た景気と金融
11月	小林陽太郎	東京サミットと今後の諸問題
12月	堤 富男	政治改革の道筋と日本の針路
1994年1月	稲葉 興作	下期景気見通しと緊急経済対策
2月	石 弘光	内外経済環境と経済改革の視点
3月	篠沢 恭助	総合エネルギー政策と原子力
4月	飯田庸太郎	この不透明な景気にどう対応する
5月	渡部 恒三	― これからの日本経済と企業
6月	松浦晃一郎	21世紀の経済・社会と税制改革
7月	高木 勝	の方向
8月	望月 薫雄	平成六年度予算のポイント
9月	山岸 章	景気の動向と企業の対応
10月	武 大偉	新しい政治システムのビジョン
11月	堤 富男	ナポリ・サミットと日米経済関係
12月	J・ボイド	どうなる94年の日本経済
1月	カパートナーシップ	― 景気回復基調はホンモノか？ これからの建設行政の課題 政界再編「第三幕」を展望する 中国経済の現状と中日関係 産業政策と新規市場創造プログラム

公研セミナー

[illegible][illegible]

公研セミナー

4月	鈴木 敦夫	多様化する安全保障の課題と日本の防衛戦略	5月	橋本 裕	LN Gサプライチェーン構築の歴史に学ぶ
5月	渡辺 努	物価と経済力を考える	6月	黒田 東彦	再び技術立国をめざすための戦略提言
6月	兼原 信克	台湾有事に備える	7月	甘利 明	トランプ関税と貿易秩序の行方めざす国のかたち
7月	神田 真人	世界経済の大変容と国際政策対応	8月	宗像 直子	「平らかな時代」の終焉
8月	竹村公太郎	大土木技術者、家康が築いた近代日本の礎	9月	玉木雄一郎	日本の経済社会をめぐる構造変化
9月	高市 早苗	経済安全保障の考え方	10月	林 伴子	物理学150年の謎を超えて
10月	遠藤 量太	エネルギー・原子力政策の再構築	11月	沙川 貴大	情報熱力学とエネルギーの未来
11月	奥田 久栄	世界のエネルギー情勢と、脱炭素社会実現に向けたJ E R Aの挑戦	12月	鈴木 一人	「トランプのアメリカ」は世界どのように変えようとしているのか
12月	宮本 雄二	習近平体制の確立と中国のゆくえ			
2024年1月	篠田 謙一	古代ゲノムが明らかにした日本人のなりたち			
2月	前田 努	令和6年度予算のポイントと財政の課題			
3月	大隅 良典	あらためて基礎科学の意味を考える			
4月	村尾 新一	岸田政権の課題と2024年の政局展望			
5月	影広 達彦	社会インフラに向けた日立のA I技術と適用事例の紹介			
6月	中野 剛志	日本経済が活力を取り戻すためのヒント			
7月	堀本 武功	大国化するインドの行方			
8月	齋藤 健	経済・外交・どうするニッポン			
9月	村瀬 佳史	エネルギー政策の現状について			
10月	永澤 昌	再生可能エネルギーの主力電源化に向けた取組と課題			
11月	木下 斉	人口減少下における「発展する地域、衰退する地域」			
12月	富田 浩司	米大統領選挙後の世界はどう動くのか			
2025年1月	小林 鷹之	日本がめざすべき国家のかたちは			
2月	中山 光輝	令和7年度予算のポイントと財政の課題			
3月	廣瀬 直己	福島事故から学んだこと、学ばべきこと			
4月	橋本 五郎	ジャーナリストへの「一本の道」			

2017年5月	白石 隆	トランプ時代の外交政策 ―アジア太平洋地域を中心に 地域に根ざす経営	7月	渡辺 努	技術革新と経済停滞のパラドックス	7月	勝野 哲	電気事業の展望 ―中部電力の事業戦略 新型コロナ対策への経済学への貢献
6月	海輪 誠	―東日本大震災を乗り越えて― 国際金融情勢と世界経済のゆくえ	8月	宮家 邦彦	中東情勢に関する五つの神話	8月	大竹 文雄	日本の安全保障と日米同盟 ―今そこにある―歴史の転換点
7月	浅川 雅嗣	欧州複合危機とその世界的含意 LNGの今後とJERAの役割 安倍長期政権の行方 ―日本周辺で何が起こっているか？	9月	阿部 力也	の将来 ―分散型再エネと配電網の自由化をめざして 夕日を釣り上げた男	9月	河野 克俊	再生可能エネルギー発電の主力 電源化に向けて デジタル変革時代のICT政策 ―Society5.0を支えるICT基盤
8月	遠藤 乾		10月	村上 龍男	―クラゲ館長の経営哲学 日本の通商政策の現状と戦略 ポピュリズムは民主主義の新たな展開なのか	10月	文挾 誠一	
9月	垣見 祐二		11月	広瀬 直		11月	二宮 清治	
10月	加藤 清隆		12月	水島 治郎		12月	芹川 洋一	岸田政権の課題と展望 エネルギー基本計画の考え方と カーボンニュートラル実現への 道筋
2018年1月	川島 真	野生の思考と未来の人材育成 習近平時代の中国を読む 地球と共存する経営 平成30年度予算のポイントと財政の課題	2020年1月	野田 聖子	令和2年度予算のポイントと財政の現状 長期サイクル論から読み解く世界像	2022年1月	保坂 伸	
2月	小林 喜光		2月	角田 隆		2月	坂本 基	
3月	中山 俊宏	トランプ政権1年、異形の大統領の内政と外交 最新の通商政策と今後の方向性 Dilemma3.0 脱炭素化で変革を迫られるエネルギー産業と電気事業の将来像	3月	嶋中 雄二		3月	北村 滋	経済安全保障とは何か 積極財政とインフラ政策による 日本再生 宇宙はどきどきわかってきたか 未来を切り拓く「新しい資本主義」の起動
4月	柳瀬 唯夫		4―6月	※新型コロナウイルス感染症対応のため中止 吉崎 達彦		4月	藤井 聡	
5月	岡本 浩		7月	高見澤 将林	アフターコロナの世界と日本 多国間主義の危機	5月	大栗 博司	
6月	森 英介	日本の進むべき道 ―エネルギー・環境政策を中心として	8月		―世界の安全保障環境はどう変化するか これから予想される大規模災害と企業のレジリエンス 実証ミクロ経済学が取り組む 経営現場のデータ分析 菅政権の展望と課題 ウィズ・コロナの国際情勢と日本外交	6月	田和 宏	
7月	平岩 俊司	日本経済の新しい姿 ―キヤッシュレス・フィンテック・超量的緩和の行方 オートファジー研究から見えてきた生命像	9月	田中 淳		7月	寺澤 達也	今後の日本のエネルギー戦略 ―カーボンニュートラルの実現とエネルギー安全保障の強化に向けて
8月	加藤 出		10月	渡辺 安虎		8月	小泉 悠	ロシア・ウクライナ戦争と日本の安全保障 人口減少経済における財政・金融政策の転換点 コロナ禍での学びを活かすためには
9月	大隅 良典		11月	清水 真人		9月	飯田 泰之	
10月	兼原 信克	政治主導と安全保障政策 米中貿易戦争の行方 我が国を取り巻く現状と海上保安庁の対応	12月	谷内正太郎		10月	忽那 賢志	
11月	津上 俊哉		2021年1月	金子 禎則	これからの送配電事業運営 ―地域経営を軸としたモードチェンジ	11月	十市 勉	激動する国際情勢と日本のエネルギー戦略 ―電力の安定供給確保への提言 バイデンのアメリカ、トランプのアメリカ―2024年大統領選挙に向けて 伝統企業の変革への挑戦 ―社員のポテンシャルを解き放つDX人材育成
12月	岩並 秀一		2月	宇波 弘貴		12月	久保 文明	
2019年1月	小野寺五典	日本を取り巻く安全保障環境 平成31年度予算と財政のポイント	3月	中島 正愛	令和3年度予算のポイントと当面の財政運営 21世紀の防災・減災を支える社会インフラのありよう バイデン新政権の展望と「自由で開かれたインド太平洋」の実現 洪沢栄一に学ぶ	2023年1月	三苦 倫理	
2月	阪田 渉		4月	市川 恵一		2月	中村 英正	
3月	姉川 尚史	EV（電気自動車）を取り巻く環境と展望 5G/IoT時代のサイバーセキュリティ政策 日本文明と災害とエネルギー―水力発電の底力	5月	木村 昌人		3月	藤塚 真也	カーボンニュートラルに貢献する東芝のエネルギーソリューションとモノづくり
4月	竹内 芳明		6月	福原 正大				
5月	竹村公太郎							
6月	岸田 文雄	当面の政策課題について						

私の生き方

1970年3月	牧田興一郎	こういう、きたえられ方 「マイ・カンパニー」のすすめ	10月	宮脇 朝男	大雪の朝故郷をあとに 「有限の命を『三昧教』で生きているんだら寝られる、生きてるうちに……」	1975年1月	鈴木 治雄	「米騒動」から「戦後」まで 人生の滋養を摂取する 「習つておぼえていいものを作れ」 「毎日三時間現場にもぐりこんだ青春」 「作曲」にひかれ「魚」にひかれ七十年
4月	瀬川美能留	仕事のできる男は家ではよい素手でも日本を守ろう	11月	河野 謙三		2月	真藤 恒	
5月	長谷川周重	「上役をつかって仕事をしよう	12月	越後 正一	心に故郷をもとう	3月	末広 恭雄	
6月	田口 連三	風が吹いたら帆をあげよ	1973年1月	津田 文吾	原爆の炎の下から	4月	榎田 久生	生き残る組織
7月	稲山 嘉寛	平凡だから順調に育った	2月	古賀 繁一	口に塩を突くこまれて	5月	林 百郎	「我執をもちつつ日々精進する大衆の幸せを希つて五十年」
8月	藤野忠次郎	もつとも効率のあるものがそれをやれ	3月	木村 武雄	ある政党政治家の履歴	6月	和歌森太郎	「刑務所で勉強して弁護士に「有念不尽の意志」——目いっぱいやるな、ゆとりを持て直視する
9月	中山 素平	大事は軽く、小事は重く	4月	正木 千冬	十年さざみの風雪の中を	7月	平井富三郎	いそして冷静に判断する
10月	赤坂 武	「運命」の流れの中に	5月	黒田 了一	涙のある人を尊敬する	8月	金 達寿	いわれなき差別の中から真実を
11月	広岡 知男	驚くな、あわてるな、怒るな	6月	市川 誠	青年に注目している	9月	大木 正吾	戦後三十年の労働史の中を歩く
12月	横山 通夫	自分を追いつめ、追いつめる	7月	宮地 政司	「私の労働運動史とこれから宇宙ととりくんで七十年」	10月	保利 茂	人生の道標
1971年1月	小林 宏治	「正論」を実行しよう	8月	赤城 宗徳	「自ら待むにしかず」	11月	家永 三郎	歎異抄と聖書
2月	篠島 秀雄	オポチュニストほど採算があわない人生はない	9月	藤井 丙午	「東大出の村長からスタートした私の政治生活	12月	高木 文雄	「みんなの俸せを念頭に生きる人間社会」の在る場所を見つ
3月	宮崎 一雄	流星の間に全力を集中せよ！	10月	宇都宮徳馬	反主流の道を往く	1976年1月	中村 寅吉	18ホールと洗面所——打うてばそれが人生のスタートだ
4月	鈴木 二郎	リーダーは汗みどろで献身せよ	11月	飛鳥田一雄	「実証」をつらぬいて生きる	2月	須丹礼アーネスト	私は65年の日本兵を救った
5月	三木 武夫	心の遺産を残そう	12月	瀬長亀次郎	ひとつの真理を求めて	3月	矢野健太郎	一番大事なこととはやめないことだ
6月	日向 方斉	「古人刻苦必ず盛大なり	1974年1月	川瀬 一貫	「抑圧の中を生きる	4月	清田 篤男	下町に演劇の火をともしつづけて
7月	日 向	「きかん坊」が修養つんで四十年	2月	両角 良彦	ある行政マンの生きた道	5月	古川 晴男	昆虫に継ぎ木をする
8月	松山 広	「誠意なき人間社会は認めない	3月	橋本 栄一	未知の世界に進歩がある	6月	蜷川 虎三	「トラさん」の人生目録——吉田さんとの「ケンカ伝説」はウソ
9月	前田七之進	「マイペース」で歩いた七十年	4月	高川 秀格	鳥驚つて、うつろわず只この一筋	7月	田部文一郎	入社したときから社長になるつもりだった
10月	田實 渉	人間に対する愛情の深い人が好き	5月	丸木 位里	ひとりの画家の歩いた道	8月	金沢 嘉市	人間に「くず」はいない
11月	岡崎嘉平太	「嘘をつかないゴヘイダ	6月	小川 栄一	マイティーチャー・イズ・ネーチャー	9月	畑 和	「真実一路」六十六年
12月	河野 文彦	「そこらからフライングが湧く	7月	守屋 学治	バウンダリー・コンディション	10月	宮崎 輝	「社会主義・弁護士、そして知事
1972年1月	永田 敬生	「経営はこれ統帥なり」	8月	中島 健蔵	「現金、掛なし」の人生	11月	横山 隆一	「雲水から事業の世界へ
2月	太田 薫	大衆のなかに生きる	9月	森 八三一	「堅なれば堕せず	12月	鄭 敬謨	「野次馬一代——自分をひやかすもう一人の自分
3月	大槻 文平	「おしめの下をくぐれ——常に大衆と接触することが大切	10月	佐々木更三	わが道は一つ、もってこれを貫く			「或る異邦人の記録
4月	柴山 幸雄	仕事を一心にやり、仕事を楽しむ						
5月	東海林武雄	「信じたらそこへゆけ、真似はするな」						
6月	浅井 孝二	新しい軌道を君たちが敷け						

私の生き方

1977年1月	若月 俊一	或る農村医師が歩いた 『センチメンタル・ヒューマニズ ムの半生』	11月	石田 博英	三十年間凝視つづけた バクさんの『自民党私史』	8月	青地 晨	反骨転々 ―横浜事件から金大 中へ自由と真実を追い求めて ニューギニア食人種部落を往く ―現地人に野蛮人と言われた男 の話
2月	楳取 正彦	煩惱の東京シユバイツァー伝 ―山谷、どんな人間も死んでは いけない	12月	大慈弥嘉久	『無欲が合理』を生きたる 私の経営論	9月	西丸 震哉	『影武者』伝 ―脇に徹して 取り組んだ裏面史 『有史有魂』日乗 ―マンカヤ ン鉱山で得た人情に国境なし 或る『運命論者』の戦後史 ―凡庸の団結で乗り切った ロッキード
3月	ヨゼフ・ピタウ	神父ピタウの半生 ―戦後三十年のニッポン史断面 トモさんの現代日本批判 或る勝負師	2月	川又 克二	『慎重』は経営の美德 ―私が刻んだ昭和経済史 わが彷徨 ―創造への情熱を秘めて 骨太の男 ―潮流に抗した官僚の記録 汗と涙はひとのためにながせ ―願かけた十年刻みの人生 ―『侍の宗教』から禅の世界へ 反骨と妥協 ―ボタ山から歩 き始めたある政治家の半生	10月	金丸 信	『おのが力と思うなよ』 ―師佐 藤栄作から学んだ政治実践録 オープン・アイズ・オン・オール ―トップは全力投球する ―防衛官僚の告白的行状記 ―天皇と呼ばれ、反骨の所 信を貫く 『泥まみれのすすめ』 ―人生は罐詰から始まった 鬼才『方円』を舞う ―古碁で 蘇生『大死一番』のモニュメント ―先人は樹を植える ―『西村 の懐刀』がいま語る戦後私史 日々コレ挑戦ス ―我が行動的人生に悔いなし それでもトキは青空を翔ぶ ―野鳥の色でわかる日本列島の 秘密
4月	三笠宮寛仁	或る勝負師	3月	佐々木良作	『散歩』人生を謳う ―檀一雄 と飲み明かしたこともあった 墨香と人生 ―気負いを捨てて、歩々清風 我が『町人のリベリズム』伝 ―経営は教育なり…… 『非凡』への道標 ―ゼロを拒んで逆境を生きたる 首陽山に隠れて蔵も喰らわず ―いまふり返る私の昭和戦後政 治史	11月	尾本 信平	『デモクラティック・カンパニー』 のすすめ あるエンジニア経営者の記録 ―あくなき向上に日々を賭 けて わが青春の日々は…… ―『漫々的好』を唇に弟妹を養 い生きたる 背中にインパールの碑がある ―経営の極意、自分流のすすめ 実証考古学、古代の声を聞く ―それはひとかけらの土器から 始まった 清濁は合せ吞まず ―『県民本 位』で尽くした二十年と現在
5月	呉 清源	―正徳・利用・厚生 of 人生 『卓弥呼城壁幻想』	4月	岩尾 一	『待の宗教』から禅の世界へ 反骨と妥協 ―ボタ山から歩 き始めたある政治家の半生	12月	松尾泰一郎	
6月	平山 郁夫	―シルクロード巡歴から高松塚 壁画模写へ	5月	田中伊三次	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	1981年1月	竹下 登	
7月	河井信太郎	或る検察官の記録	6月	ヘンリー・ミトワ	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	2月	植村 光雄	
8月	植枝 元文	教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタ リヤ人の日本紀行	7月	多賀谷真稔	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	3月	海原 治	
9月	リッカルド・アマディ	さまよえる或るイタ リヤ人の日本紀行	8月	G・R・ペーカー	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	4月	三村 庸平	
10月	市川 房枝	六十年の道標 ―女性解放を闘いつづけて ヘソとツツガムシ ―風土病のルーツを追って 弱虫一代 秩父二千年の血が辿った道 ―相場師、織屋そして政治家 いつでもほんとうのことを言え る目 ―戦争に役立たなかつ た一物理学者の半生 盆栽は巨木になれない ―柔と鉄を背負って生きたる 『和して同じからず』の記 ―文相、記者、日教組からみた 実践教育の記録 碁のゴッホになる ―盤上に芸とロマンを描いて 翔べ！竹とんぼ ―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	9月	富塚 三夫	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	5月	坂田 栄男	
11月	佐々 学	ヘソとツツガムシ ―風土病のルーツを追って 弱虫一代 秩父二千年の血が辿った道 ―相場師、織屋そして政治家 いつでもほんとうのことを言え る目 ―戦争に役立たなかつ た一物理学者の半生 盆栽は巨木になれない ―柔と鉄を背負って生きたる 『和して同じからず』の記 ―文相、記者、日教組からみた 実践教育の記録 碁のゴッホになる ―盤上に芸とロマンを描いて 翔べ！竹とんぼ ―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	10月	法眼 晋作	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	6月	大内 啓伍	
12月	向坂 逸郎	弱虫一代 秩父二千年の血が辿った道 ―相場師、織屋そして政治家 いつでもほんとうのことを言え る目 ―戦争に役立たなかつ た一物理学者の半生 盆栽は巨木になれない ―柔と鉄を背負って生きたる 『和して同じからず』の記 ―文相、記者、日教組からみた 実践教育の記録 碁のゴッホになる ―盤上に芸とロマンを描いて 翔べ！竹とんぼ ―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	11月	松尾 金蔵	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	7月	戸崎 誠喜	
1978年1月	荒船清十郎	秩父二千年の血が辿った道 ―相場師、織屋そして政治家 いつでもほんとうのことを言え る目 ―戦争に役立たなかつ た一物理学者の半生 盆栽は巨木になれない ―柔と鉄を背負って生きたる 『和して同じからず』の記 ―文相、記者、日教組からみた 実践教育の記録 碁のゴッホになる ―盤上に芸とロマンを描いて 翔べ！竹とんぼ ―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	12月	平賀 潤二	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	8月	山階 芳麿	
2月	伏見 康治	盆栽は巨木になれない ―柔と鉄を背負って生きたる 『和して同じからず』の記 ―文相、記者、日教組からみた 実践教育の記録 碁のゴッホになる ―盤上に芸とロマンを描いて 翔べ！竹とんぼ ―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	1月	菊地庄次郎	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	9月	小野 晋	
3月	永野 重雄	盆栽は巨木になれない ―柔と鉄を背負って生きたる 『和して同じからず』の記 ―文相、記者、日教組からみた 実践教育の記録 碁のゴッホになる ―盤上に芸とロマンを描いて 翔べ！竹とんぼ ―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	2月	岩田 式夫	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	10月	佐波 正一	
4月	永井 道雄	盆栽は巨木になれない ―柔と鉄を背負って生きたる 『和して同じからず』の記 ―文相、記者、日教組からみた 実践教育の記録 碁のゴッホになる ―盤上に芸とロマンを描いて 翔べ！竹とんぼ ―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	3月	小坂善太郎	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	11月	山下 元利	
5月	藤沢 秀行	盆栽は巨木になれない ―柔と鉄を背負って生きたる 『和して同じからず』の記 ―文相、記者、日教組からみた 実践教育の記録 碁のゴッホになる ―盤上に芸とロマンを描いて 翔べ！竹とんぼ ―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	4月	岩井 章	『御番所の息子』底辺に生きたるの 記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワ ンマン	12月	生方 泰二	
6月	宮田 義二	翔べ！竹とんぼ ―私の労働運動30年史 私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	5月	金森 政雄	『先憂後楽』に生きたる ―八十年代『リーダー』の条件 ―現場で聞く ―逆境で掴んだ、ほがらか人生 ―六中観、修業法 ―原爆の中から生き還って	1982年1月	末永 雅雄	
7月	太田 薫	私はこれからこう生きる ―革 新都政のビジョン エトセトラ ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	6月	今井 正雄	『先憂後楽』に生きたる ―八十年代『リーダー』の条件 ―現場で聞く ―逆境で掴んだ、ほがらか人生 ―六中観、修業法 ―原爆の中から生き還って	2月	友納 武人	
8月	伊藤 三郎	ノミとカナヅチ ―或る自治体リーダー実践録 仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』	7月	亀井 正夫	『先憂後楽』に生きたる ―八十年代『リーダー』の条件 ―現場で聞く ―逆境で掴んだ、ほがらか人生 ―六中観、修業法 ―原爆の中から生き還って			
9月	三遊亭圓生	仕事はウツをつけな ―漱石に教えられた『笑』						
10月	ゲルト・クナツパー	―土、修行異人伝 ―バー ナードリーチの奨めで益子へ						

私の生き方

1986年9月	丸谷 金保	日記として足らず歳計して余りあり―そこに山ぶどうがあった。十勝ワイン奮戦記
10月	田川 誠一	いま振り返る苦難の「井戸掘り」、日中と政治倫理にかけた二十五年
11月	窪田 俊彦	「お地蔵さま」が空を翔んだ―セスナ一機からスタート、運をつかむ
12月	宮岡 公夫	「浮きつ、沈みつ」わが道を往く―落第六回、悲しむ母を見て一念発起
1987年1月	宇野 宗佑	春風鉄壁を貫く―いま話そう中曽根政権誕生秘話
2月	山城 彬成	「復興」に燃えたわが青春の日々―青年会活動から「現場」を志願、日本鋼管へ
3月	高沢 寅男	焼け野原に平等を見た―良寛を愛する庶民政治家「寅さん」の原点
4月	渡里杉一郎	未来が現在を規定する―「莫妄想」を胸に前向きに歩む人生の八〇％は運命である
5月	藤原 一郎	―器量がそれを判断し自分のものにする
6月	鯨岡 兵輔	禍は「得意」に生ずる―金と結びついてはいいい政治はできない人の「かざしも」に立たず
7月	山岸 章	―「紛れ込み遅延」が本腰を入れて労働運動四十年
8月	渡部 恒三	「相ずれする人になれ」の母の言葉を胸に―蓄音機で中野正剛の演説を聞き、運命の道歩く反骨の「やり直し人生」
9月	土方 武	―農林省から住友へ、化学の世界にユメを賭けた
10月	川崎 寛治	「人間が存在する政治」を目指して―沖縄返還で佐藤総理と論陣を張る
11月	海部 俊樹	陽の当たらない場所に光を―六切れのスイカと河野金昇先生の不自由な足
12月	武宮 正樹	「大宇宙」に遊ぶわが感性―生きたいように生き、打ちたいように打つ
1988年1月	田中 精一	「ローアウト精神」に燃え、過去を悔いず―電車の運転手からスタートした電力マンの軌跡
2月	宇野 収	人生に設計図はない―挫折の果てに出会ったウルマンの「青春の詩」
3月	三塚 博	私は逃げなかった―やましいことがなかったからやり抜けた国鉄民営化
4月	片山仁八郎	「失敗の記録」を残せ―モーターひと筋「平凡な人生」を変えた二つの転機
5月	内田 秀雄	「空の心なり」
6月	山口 鶴男	―原子力の安全を「科学」するわれ泥中の根のごとく―
7月	諸橋 晋六	―国会裏方二十五年の記録―将らず逆えず―死ぬまで仕事に挑み続けた父の背中
8月	河毛 二郎	朝のこない夜はない―青春を樺太に生きて
9月	久野 忠治	私は「幻の佐藤・周恩来会談」をセットした―「日中・日朝」ひとり我が道を行く
10月	住吉 弘人	―とらわれない心で「生きる」―大恥をかかせても素平さんは怒らなかつた
11月	古在 由秀	地球はまるくはなかつた―果てしもない宇宙にのめりこんで四十年
12月	藤波 孝生	我が生涯は「第二捕手」―「補欠」には主人公を助ける喜びがある
1989年1月	田島 敏弘	「ビッグ・バン（創造的破壊）」に燃える―オートバイで工場診断に飛び回った若き銀行野郎
2月	平松 守彦	私の「豊の国」づくり実践記―県は自ら助くるものを助く
3月	豎山 利文	―日々新たな「り」―分裂から再編
4月	福岡 知之	・統一へ労働運動四十年を歩く―ともと地上に道はない、みんなて歩けば道になる―「エネルギー」の未来とその科学的選択
5月	米沢 隆	汝、海の如き男たれ（勝海舟）―身を持つて体験した大衆は「愚にして賢」
1990年1月	伊藤 昌壽	―我れ七十にして矩を踰せず―「納得しないで屈従はしない」私を支えた父の決断・母の一言
2月	深海 正治	―「非連続」の中から新しい発想が生まれる
3月	井出一太郎	―ナイロン光合成法を発見、いま十年先の「札を貼る」
4月	伊藤 茂	―随処に主となれば立つ処真なり―「自覚・自助・自立」で打ち込んだ胃カメラ開発
5月	三田 勝茂	―理想を追い続けた政界四十年と「わが歌」
6月	北岡 徹	いま、翔ぶが如く―「大内兵衛先生の「鎌倉命令」と「二〇九条の憲法」
7月	吉野 俊彦	―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
8月	ドナルド・キーン	―終章に美を求めて―「カメラ道楽と型破りの青春の日々」
9月	樋口廣太郎	―逆境のとき、そこに鵬外がいた―「虚無からの脱出」行、日銀三十余年の幾山河
10月	新関 欽哉	―和して同ぜず、違つて犯さず―歴史に憧れた外交官が歩いた日ソ交渉の舞台裏
11月	岩村 英郎	―鉄道の道」を往く―「小手先でなく、原理原則にさえ
12月	小山 五郎	―我れ七十にして矩を踰せず―「納得しないで屈従はしない」私を支えた父の決断・母の一言
1991年1月	伊藤 昌壽	―「非連続」の中から新しい発想が生まれる
2月	深海 正治	―随処に主となれば立つ処真なり―「自覚・自助・自立」で打ち込んだ胃カメラ開発
3月	井出一太郎	―理想を追い続けた政界四十年と「わが歌」
4月	伊藤 茂	いま、翔ぶが如く―「大内兵衛先生の「鎌倉命令」と「二〇九条の憲法」
5月	三田 勝茂	―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
6月	北岡 徹	―終章に美を求めて―「カメラ道楽と型破りの青春の日々」
7月	吉野 俊彦	―逆境のとき、そこに鵬外がいた―「虚無からの脱出」行、日銀三十余年の幾山河

1982年3月	小林 大祐	「挑戦の哲学」オイ、やつてみる！ ―首都防衛システムからコンビニ ユーターへ―	11月	岸本 泰延	私は「マイナス選択」する ―「作戦要務令」と行動的経営 理念―	5月	金尾 實	逆境も明日への道程 ―私はこうして病氣とシベリア 抑留に克った―
4月	武藤 山治	「心の大尽になれ」の母の声を 胸に生きている ―池田勇人に「成 長率日本一」と言われた男の話 不安を抑えて奮いとれ ―ブラン・ドウ・シー」のチャ レンジ人生 悔しかったら仕事しろ ―学校 創設以来の悪童の「型破り人生」 「武蔵」を超える ―エジソンになろうとした少年 「パイプ」和真空管 ―「極限」 に挑んだある実践主義者の軌跡 「三足」の井戸を掘る ―「浄化」の井戸を掘る 地ならし人生 私は「我慢」する ―幻の五輪 選手が挑む「トータル経営術」 「六文字」の王道を往く ―「な ぜ・しからば」で師を超える 私は不器用に生きてきた… ―モ タヤマ」流市政の中身と値うち 「首尾一貫する」の道理 ―政 界四十三年、宝塚五十年の足跡 わが反逆の実録 ―「先見」 にかけたエネルギー・ルート 日本語游々の記 ―啄木は私の 母を困らせたわるい歌人 「昼行燈」の「土魂商才」 「匠」を育てる 「自ら学び、自ら動け」の修行伝 ―野党連合」で柔道部に勝つ た六高時代 大陸流転の果てに… ―和平工 作から漢字の「親子」発見まで 「もう一人の自分」はごまかせ ない ―SLのかま焚きから始 まった現場一筋 「辛抱と攻め」の哲学 ―御用 聞きで住吉を回って「人物探求」 「燈燈無儘」 ―貧困と抑圧の青春の中から	12月	黒川 武	電燈の下で飯が食える… ―我が「闘争と妥協」の原点 未だ「木鶏」たりえず ―「三 尺の間」に創る「雨露離」人生 ニーズのあるところに我が道あり ―カエルの解剖で卒倒して 変わった人生 「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」 風に向かつて進む ―ターボチ ヤージャマンの「安定の力学」 その時「運」は後ろからついて きた ―大豆で「ガラ」を食い、 一度はクビに… 都市を「経営する」 ―河本敏夫処分反対ストで姫路 高を放り出される 雲を起こす「龍」が往く ―激動期のアジアを見て政治に 目覚める 「現代」を書きたい ―歴史を 廻り、いま出発点に立った 能がないから「今」を一生懸命 生きてきた ―サッカーとお茶 屋遊びに熱中した学生時代 「授業に惑わず」 ―白洲次郎に かわいがられた「天皇」の生々流転 書記長選敗北で目から鱗が落ち た ―陸軍幼年学校、そして担 ぎ屋から労働運動へ 「風来自門開」―虚心に、そし て頑固に生きた八十余年 いつも一枚の写真が私を見ている ―サンセットの美学と創政会	6月	渡辺 格	DNA遺伝子の世界を彷徨う ―学校は「落ちこぼれ」、家で は実験で畳を焦がす この道を拓く ―一村一品運動 でつくる「新開拓時代」 地位も権力も財産もいらない ―実存主義に共鳴、「今」を忠実 に生きてきた 手を汚して「うだつ」をあげた ―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明い朝がくる ―相場 師・種二と綴る兎町奮戦記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあつたもの ドン・キホーテが駆ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない 一隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道 「静かなる闘志」で走る ―内閣書記官長を夢みた「智将」 の燃える集団づくり 福受けつくすべからず ―察歌を作詞した文学青年が電 産ストに奇跡で奮闘 経営に奇跡はない ―負け犬根性はいらない、ネア カで乗り切った「冷飯時代」 夢に白い豪華客船が走る ―作家を志した少年が「自主技 術の重工」復活をめざして 「法機一如」に生きる ―「三月某日を忘れるな」の母 の血書に発奮 もつと光を… ―「マムシの」母 田辺「福祉に生涯をかけるの記
5月	関本 忠弘		1984年1月	武田 豊		7月	横路 孝弘	
6月	田中 勇		2月	諸井 虔		8月	牛尾 治朗	
7月	末永聡一郎		3月	村井 勉		9月	素野福次郎	
8月	西堀栄三郎		4月	宇佐美忠信		10月	力武 常次	
9月	稲葉 修		5月	伊藤 正		11月	山崎 富治	
10月	阿部 栄夫		6月	山本 政弘		12月	塚本 三郎	
11月	井植 薫		7月	稲葉 興作		1986年1月	長岡 実	
12月	本山 政雄		8月	春名 和雄		2月	梶井 健一	
1983年1月	桜内 義雄		9月	宮崎 辰雄		3月	舘 豊夫	
2月	大堀 弘		10月	山口 敏夫		4月	小林庄一郎	
3月	金田一春彦		11月	陳 舜臣		5月	猪熊 時久	
4月	八尋 俊邦		12月	中山 善郎		6月	飯田庸太郎	
5月	進藤 貞和		1985年1月	永山 時雄		7月	橋口 収	
6月	熊谷 典文		2月	中村 卓彦		8月	田辺 誠	
7月	藤堂 明保		3月	駒井健一郎				
8月	石川 六郎		4月	梶山 静六				
9月	植田 三男							
10月	長洲 一二							

1990年8月	江田 五月	『人生模様』を映す政治をめざして… ―父の死、そのとき天命と狂気で決断した政界入り ―「陽が昇るから、夜が明ける」 ―鉛筆を倒して決めた電氣の道と、それから ―対話、が新しい価値を生む ―人格、徳性をブラシユアアップした予科の、無監督テスト ―いま生命の大切さを知る ―動物と生きた四十年、自然との共存の夢を追う 木のいのち、木のころろ ―宮大工六十年、飛鳥の知恵で今、薬師寺伽藍再建に挑む ―勘忍しーや、―戦後復興の木材輸入で味わった、地獄と天国 ―和顔愛語』に生きる
1991年1月	龍野 富雄	―記者志望が電力へ、勧誘や用地交渉に奔走した若き命の日々 生き物は方円の器に従う ―実験好きの文学青年が迷い込んだ、絶妙、な細胞の世界 人生感意気、巧名誰復論 ―つまらない仕事を誠実に早くやって掴んだ最後の勝利 ヒマラヤに日本文明の源流を見た ―アジア、照葉樹林文化、地帯を歩いた半生
2月	永倉 三郎	『もぐら』の如く生きて… ―外務省の異端児、が歩いたアジア、中東の裏側
3月	岡田 節人	―一視同仁 ―民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道 ―飽くなき好奇心、を抱きつづけて… ―中国共産党の研究から絵柄のないドラマ、の世界へ 現代の深奥に中世がある ―修道院体験からヨーロッパ社会史の研究へ
4月	相川賢太郎	
5月	中尾 佐助	
6月	三宅 和助	
7月	佐々木秀典	
8月	加藤 紘一	
9月	阿部 謹也	
10月	日高 敏隆	
1993年1月	上山 保彦	
2月	西岡 武夫	―小学生のとき決断した政治への波瀾の道 ―ベイスラムの教えを守り、文化の架け橋に――いまこそ、多様性国際社会、の時代へ ―庶民の歴史、を求めて ―柳田民俗学と出合い、日本人の他界観を研究する 人の痛みをわかる医者として ―天命、を得て、糖尿病と妊娠、に取り組む ―真理、につながる日々を生きて ―剣道、禪に培われた精神で日本、の政治に挑戦 ―巧詐は拙識に如かず ―若き日に海外で鉄を売りながら得た人生哲学 ―「桃季言わざれでも下自ら蹊を成す」――ロンドンに生まれ、バイリンガル経営者の新商社論、いつも同じことをやってきた、 ―新聞記者、原子力、大使、いろいろやっただけども ―「正正の旗、堂堂の陣」で進む―ベルーに生まれ、孫子に学んだチャレンジ人生
3月	大森 安恵	
4月	左藤 恵	
5月	西岡 武夫	
6月	アリフィン、	
7月	井之口章次	
8月	大森 安恵	
9月	岡野加穂留	
10月	秋山 富一	
11月	横原 稔	
12月	今井 隆吉	
1994年1月	宇澤 弘文	
2月	山下 勇	
3月	篠原 一	
4月	西澤 潤一	「為ん方尽くれども望みを失わず」――信仰に支えられ乗り越えた試練の数々 ―「故きを温ね、新しきを創る」 ―政界再編の旗手が語る「血と心の通う政治」の道 ―「定説」に惑わされず、自分を信じて… ―自称、不器用な科学者、が生んだ発見への軌跡 己を修むるに敬を以てす ―若き日のラバウルで刻みつけた、トップの重さ 異文化の架け橋として… ―「焼け跡」を原体験に非戦・護憲を貫く ―無心、の境地で勝機を掴む ―十歳で来日、若一筋の、二枚腰、人生 嫌われる富者より、愛される貧者になれ ―「らしくない大使」の日本外交論
5月	松谷健一郎	
6月	國弘 正雄	
7月	林 海峯	
8月	中江 要介	
9月	寺澤 芳男	
10月	上原 康助	
11月	齋藤 裕	―GHQとの交渉に奔走、あの廃墟から興った鉄鋼業の軌跡 ネパールの草の根に入って… ―、献げ合って共に生きる、医療活動の十八年 心と暮らしの豊かさを求めて ―現代文明に警鐘を鳴らす、宇澤経済学、の原点 創造は神から与えられた特権である ―世界修行で得た青春の「武器」を持ち続けて 生涯、リベラリズム、を通す ―ガンから生還、一市民として地域運動へ
12月	岩村 昇	

1994年4月	山田 太一	―浪して得た人生最良の友人・伴侶・仕事 ―想像力の衰弱した社会でドラマを描き続けて… ―直感精読、を胸に心技を貫く ―芸術的感動に通じる妙手の発見 ―トゥモロー・イズ・アナザーデイ、―新聞記者志望が、通貨マフィア、と呼ばれて… ―共に靴を脱ぎ、水に入る、 ―父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の、貿易人生、 ―検事をやって、性善説、になった… ―特捜検事から転身、高齢者福祉の世界へ 己に忠実に、庶民感覚を持ち続けて… ―仕掛け人が語る四十年の政界秘話 寄生虫も神の子のひとり… ―目黒寄生虫館館長の八十五歳の情熱 ―「白雲幽石」の精神で基盤にのぞむ ―最年少で本因坊、二十年後には最年長記録を… アイヌ・ネノアン・アイヌ ―共生と民族の権利回復をもとめて四十年 経験の蓄積がひらめきを生む ―戦後復興とともに歩んだ「強気エコノミスト」の軌跡 常に弱者と向き合って生きる ―「人間の条件」のモデルが説く共生と公正の道 戦中の原始生活が教育観を変えた… ―農民に学んだ「教育による野性喪失」 石の上にも、三十年、 ―野生動物研究に取り組む女性園長奮戦記
5月	加藤 一二三	
6月	行天 豊雄	
7月	江尻宏一郎	
8月	堀田 力	
9月	田村 元	
10月	亀谷 了	
11月	石田 芳夫	
12月	萱野 茂	
1995年1月	金森 久雄	
2月	隅谷三喜男	
3月	大田 堯	
4月	増井 光子	
5月	袴田 茂樹	
6月	桜井徳太郎	
7月	近藤 次郎	
8月	黒田 眞	
9月	谷 正雄	
10月	村井 資長	
11月	内藤 國雄	
12月	佐原 真	
1996年1月	江戸家猫八	
2月	吉井 淳二	
3月	猿谷 要	
4月	竹内 宏	
5月	秋葉 忠利	
6月	秋岡 芳夫	
7月	日野原重明	
8月	中村 隆英	
9月	矢口 高雄	
10月	山折 哲雄	「林住期」の知恵に学ぶ ―老・病・死をめぐる生きた学問を求めて 僕は動物のことばかりやって来た ―野生動物保護の最前線に立つて… すべてにコミットして生きる ―思想遍歴のすえに掴んだ我が人生哲学 時代がボクに追いついた ―森流、ほんにやら人生、の極意 ウィルスは薬を運ぶ宅配便 ―、遺伝子ワクチン、で究極の治療を… 不偏不党・厳正公平が検察の生命 ―「特捜の鬼」が語った戦後疑獄史 自然のままに行く ―病氣遍歴の果てに得た、一本の道、 落語も剣道も、万事素直、 ―長屋の暴れん坊が人間国宝に ―仕事でも趣味でも可能性にチャレンジ 生きていくかぎり、生きぬきたい ―生涯を映画にかける八十五歳の情熱 歯は進化の覗き窓である ―「二重構造モデル」で解く日本人の起源 ―「曖昧」のすすめ ―魚の生態に見た競争と共存の原理 ―天命に任せて人事を尽くす、 ―「社会人学校」で学んだ企業の社会的使命 女性として、映画人として、世界人として ―十二歳の挫折と私のシネマライフ 百姓イコール農民ではない ―公的文書が切り落とした歴史を叙述する
11月	牧 冬彦	
12月	轉法輪 奏	
1997年1月	森 毅	
2月	畑中 正一	
3月	吉永 祐介	
4月	牧 冬彦	
5月	柳家小さん	
6月	北岡 隆	
7月	新藤 兼人	
8月	埴原 和郎	
9月	川那部浩哉	
10月	森下 洋一	
11月	高野 悦子	
12月	網野 善彦	

私の生き方

2001年10月	川喜田二郎	渾沌をして語らしめる ―KJ法で癒される現代人の心 自分らしく生きる	3月	田部井淳子	山は大きなエネルギーをくれる ―世界最高峰に立ったママさん 登山家	8月	奥村 康	免疫学とがん治療 ―人生を決めた人と人との出会い			
11月	紀平 梯子	私のの中の麻布材木町六十八番地 心も行動も自分のありのままに ―英断を支えた経営哲学 21世紀日本へのメッセージ ―祖国敗戦から57年の軌跡を顧みて	4月	森本 雅樹	人類は滅びるぞ ―森本おじさんの宇宙・時間・生命 骨は情報のタイムカプセル ―人類七〇〇万年の旅を追って 国際緊急医療援助の現場で ―難民キャンプで学んだ「医療の原点」	9月	与謝野 馨	日本の国力の劣化を恐れる ―私の政治の原点 見て・体験して・鍛える 遺蹟が語る最新の弥生時代像 ―はくは虫ばかり採っていた ―構造主義生物学への道 いのちに寄り添う医療 ―諏訪中央病院の三十年			
12月	丹羽宇一郎		5月	馬場 悠男		10月	金関 恕				
2002年1月	都留 重人		6月	金田 正樹		11月	池田 清彦				
2月	片山 豊	「ミスターK」のZの哲学 ―スポーツカーの志を次世代へ 茶碗の湯と新大陸移動説 ―中学生の夢を実現した勤勉・正直・感謝 千年紀に生きる ―元不良少年が紡いだ「隅っこ の思想」 幻のウイルスを追う ―ATLウイルスの発見から日本人の起源へ	7月	山之内秀一郎	怒るだけでは事故はなくならない ―鉄道から宇宙技術の最前線へ カビは遺伝子資源である ―真菌医学の権威が語る「超二流」の哲学 面白い政治家が少なくなったね ―満州・戦争・日米関係 ―偉大なる「未完成」で終わりたい ―人間国宝が語る講談・伝統・現代 生命35億年の「偶然と必然」 ―ヒトゲノムの遺伝暗号を解説する 「人間の連帯経済」のすすめ ―豊かさへの道を踏み間違えた日本人 未来研究は現代研究である―情報社会とフィランソロピー ―はくの南極の原点はマナスル ―極点踏破五〇〇〇キロの旅 ―はくは自然と本に育てられた ―サル学の原点は戦争体験 ―リタードの条件は「人間力」 ―手塚治虫さんの思い出と私の二つの転機 ウイルスの世界に魅せられて ―人獣共通感染症との闘い ―ヒールシャー 戦火に追われて ―ドイッ人記者が語る戦争・戦争責任・日本 異国で国破れて ―明るくたくましく八十七歳の漫画家人生	12月	鎌田 實				
3月	竹内 均		8月	宮治 誠		2005年1月	武村 正義	政治改革のさきがけとして ―名刺の肩書きは「楽隠居」 ―宇宙は無限に生まれ続けている ―インフレーション理論が解いた宇宙開闢の謎 ―遺伝子進化の謎を解く ―「ほぼ中立説」とランダムなゆらぎ ―はくとおふくろの大東亜戦争 ―憲法の素晴らしさを語り続けたい ―ギリラはヒトを超えている ―シルバーバックに見た父親の包容力 ―三通の辞表 ―ウォール街から帰って来た男 ―アウグストゥスの遺産 ―古代ローマから現代が見える 細胞の社交ダンス ―進化を読む「階層性の生物学」 ことばはいつの時代も揺れている ―将来志望に言語学者と書いた中学生 ―はくは憲法を呼吸している ―「私のトトロ」が育んだ市民の思想 いのちの森をつくる ―未来へつなぐ三千万本の植樹 インフルエンザへの挑戦 ―ロック少年からウイルスの世界へ	2月	佐藤 勝彦	
4月	鶴見 俊輔		9月	椎名 素夫		3月	太田 朋子				
5月	日沼 頼夫		10月	一龍齋貞水		4月	愛川 欽也				
6月	三遊亭金馬		11月	松原 謙一		5月	山極 寿一				
7月	子安美知子		12月	暉峻 淑子		6月	岩國 哲人				
8月	青木 淳一		2004年1月	林 雄二郎		7月	青柳 正規				
9月	河合 隼雄		2月	村山 雅美		8月	団 まりな				
10月	中村 桂子		3月	河合 雅雄		9月	堀井令以知				
11月	観世 榮夫		4月	加藤 丈夫		10月	小中陽太郎				
12月	小泉 武夫		5月	山内 一也		11月	宮脇 昭				
2003年1月	森 浩一		6月	ゲブハルト・ヒールシャー		12月	河岡 義裕				
2月	大田 昌秀		7月	上田トシコ							

1998年1月	趙 治典	『変化図』の多い人生を味わいたい ―大三冠棋士が求め続ける囲碁の道 ―原始人に戻ろうノ ―寄生虫博士が鳴らす日本人への警鐘 ―生まれて一秒後の宇宙を観測する ―ニュートリノ天文学の創始者の夢 ―僕の原点は、屋根うらの絵本かき ―「まんしゅう母子地蔵」に託した引き揚げ体験 ―自然にさからつちゃあいけないね ―創作落語のトップランナーの『与太郎戦記』 ―日本文化の起源を求めて ―神話から見た列島の巨視的古代史 ―あえて「正義」を語る ―元東京地検特捜部長の社会への警鐘 ―砂漠の冒険家を夢見ていた ―挫折を乗り越え国際的ピアノリストに ―目のない基盤のうえで碁を打ってきた ―『寝業師』が見た戦後政治秘話 ―会社だけが人生じゃない ―過去を否定する勇氣と決断 ―映像が人々を変えた ―老人福祉を掲げ続ける女性監督の目 ―縄文人はどんな夢を見たか？ ―「消えた社会」の文化人類学 ―「知力」の復権を求めて ―教育改革に情熱を注ぐ物理学者の軌跡 ―『思考』を深める ―FAXやEメールは研究の邪魔	3月	宮崎 勇	私の経済学は憲法とともにある ―軍縮派エコノミストの戦後日本経済史 ―鏡は空想のための装置 ―人生のベースは小学生までにつくられた ―宇宙の果てを見る ―大望遠鏡計画にかけた天文学者の夢 ―本当は植物学者になりたかった ―祖父以来のリベラリズムと反骨精神 ―免疫・自己・生命 ―「超システム」が持つ美しさ ―と不気味さ ―虫に学んだ人生 ―「ファンブル昆虫記」の完訳に取り組む ―「一匹狼」で生きてきた ―ノーベル賞学者が説く創造力の育て方 ―大自然の「知」に学ぶ ―変化と共に生きる企業と経営 ―我が人生はケ・セラ・セラ ―理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵 ―美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	4月	安野 光雅	鏡は空想のための装置 ―人生のベースは小学生までにつくられた ―宇宙の果てを見る ―大望遠鏡計画にかけた天文学者の夢 ―本当は植物学者になりたかった ―祖父以来のリベラリズムと反骨精神 ―免疫・自己・生命 ―「超システム」が持つ美しさ ―と不気味さ ―虫に学んだ人生 ―「ファンブル昆虫記」の完訳に取り組む ―「一匹狼」で生きてきた ―ノーベル賞学者が説く創造力の育て方 ―大自然の「知」に学ぶ ―変化と共に生きる企業と経営 ―我が人生はケ・セラ・セラ ―理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵 ―美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	5月	小平 桂一	宇宙の果てを見る ―大望遠鏡計画にかけた天文学者の夢 ―本当は植物学者になりたかった ―祖父以来のリベラリズムと反骨精神 ―免疫・自己・生命 ―「超システム」が持つ美しさ ―と不気味さ ―虫に学んだ人生 ―「ファンブル昆虫記」の完訳に取り組む ―「一匹狼」で生きてきた ―ノーベル賞学者が説く創造力の育て方 ―大自然の「知」に学ぶ ―変化と共に生きる企業と経営 ―我が人生はケ・セラ・セラ ―理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵 ―美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	6月	福原 義春	本当は植物学者になりたかった ―祖父以来のリベラリズムと反骨精神 ―免疫・自己・生命 ―「超システム」が持つ美しさ ―と不気味さ ―虫に学んだ人生 ―「ファンブル昆虫記」の完訳に取り組む ―「一匹狼」で生きてきた ―ノーベル賞学者が説く創造力の育て方 ―大自然の「知」に学ぶ ―変化と共に生きる企業と経営 ―我が人生はケ・セラ・セラ ―理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵 ―美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	7月	多田 富雄	免疫・自己・生命 ―「超システム」が持つ美しさ ―と不気味さ ―虫に学んだ人生 ―「ファンブル昆虫記」の完訳に取り組む ―「一匹狼」で生きてきた ―ノーベル賞学者が説く創造力の育て方 ―大自然の「知」に学ぶ ―変化と共に生きる企業と経営 ―我が人生はケ・セラ・セラ ―理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵 ―美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	8月	奥本大三郎	虫に学んだ人生 ―「ファンブル昆虫記」の完訳に取り組む ―「一匹狼」で生きてきた ―ノーベル賞学者が説く創造力の育て方 ―大自然の「知」に学ぶ ―変化と共に生きる企業と経営 ―我が人生はケ・セラ・セラ ―理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵 ―美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	9月	江崎玲於奈	ノーベル賞学者が説く創造力の育て方 ―大自然の「知」に学ぶ ―変化と共に生きる企業と経営 ―我が人生はケ・セラ・セラ ―理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵 ―美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	10月	常盤 文克	大自然の「知」に学ぶ ―変化と共に生きる企業と経営 ―我が人生はケ・セラ・セラ ―理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵 ―美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	11月	清家 清	我が人生はケ・セラ・セラ ―理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵 ―美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	12月	藤原 正彦	美しい定理」と「もののあはれ」 ―数学者の目に映った日本の世紀末 ―人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	2000年1月	中坊 公平	人は泣きながら生まれてくる ―歌を忘れていた債権回収の三年間 ―まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	2月	原 健三郎	まだやる、生きてる限りやる ―93歳、議員在職53年の政治と夢 ―「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	3月	櫻井真一郎	「スカイライン」をつくった男 ―自動車職人の昭和伝説 ―「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	4月	ひろさちや	「いい加減」のすすめ ―仏教が教える人間の生き方 ―一九四五年夏の大連 ―清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	5月	清岡 卓行	清岡文学の原点と青春後期回想 ―「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	6月	黒木 靖夫	「イッツァ・ソニー」デザイン ―日本の電子産業史とともに	7月	桂 文治	「お構いなく」 ―江戸言葉伝える、最後の嘶家、 ―「心」「社会」「進化」 ―サルの研究で人類史を還元する ―『ジョウモネスク・ジャパン』 ―縄文の視座から現代を見る ―蝶と分子人類学 ―科学者の「心」を考えつづけて ―憲法と日本人 ―現在の改憲論議に欠けているもの ―自分の中に宇宙がある ―電波天文学が解く銀河・星・惑星・生命の進化 ―漁師のせがれが総理になった ―村山内閣の五六一日間の軌跡 ―神様のノート ―安全学と21世紀の科学・技術・社会 ―ファインダーの中に思想がある ―写真家が見つめた昭和・平成の日本 ―「ガン遺伝子」発見！ ―在米37年間のスリリングな研究生活 ―宇宙ルネッサンス」をめざして ―カップからH-IIまでロケット開発50年 ―やせ我慢と政治の志 ―新しい日本の進路選択のために ―「よい歴史」と「悪い歴史」 ―世界史の統一的叙述をめざして ―「子殺しの行動学」以後 ―霊長類学者が語るサルとヒトの生き方 ―僕の原点は、疎開中の挫折感 ―「超樂觀主義者」が見た日本の将来
2月	藤田紘一郎		4月	安野 光雅	8月	伊谷純一郎																																															
3月	小柴 昌俊		5月	小平 桂一	9月	小林 達雄																																															
4月	ちばてつや		6月	福原 義春	10月	尾本 恵市																																															
5月	春風亭柳昇		7月	多田 富雄	11月	樋口 陽一																																															
6月	大林 太良		8月	奥本大三郎	12月	海部 宣男																																															
7月	河上 和雄		9月	江崎玲於奈	2001年1月	村山 富市																																															
8月	中村 紘子		10月	常盤 文克	2月	村上陽一郎																																															
9月	松野 頼三		11月	清家 清	3月	大竹 省二																																															
10月	鳥海 巖		12月	藤原 正彦	4月	花房秀三郎																																															
11月	羽田 澄子		2000年1月	中坊 公平	5月	五代 富文																																															
12月	小山 修三		2月	原 健三郎	6月	田中 秀征																																															
1999年1月	有馬 朗人		3月	櫻井真一郎	7月	岡田 英弘																																															
2月	中根 千枝		4月	ひろさちや	8月	杉山 幸丸																																															
			5月	清岡 卓行	9月	鷺尾 悦也																																															
			6月	黒木 靖夫																																																	

私の生き方

2012年5月	赤崎 勇	独り荒野を行く ―青色LED開発の道のり ジブシーになりたい！ ―ケルトと日本は「世界の両耳 飾り」
6月	鶴岡 真弓	
7月	松村 喜秀	ニセ札のDNAを探せ！
8月	北村 英治	落語とジャズと進駐軍 クラリネットに魅せられて 裸足の文化人類学者、 ソマリアに立つ
9月	西江 雅之	
10月	坂村 健	僕の「どこでもコンピュータ」 ―TORONからユビキタスへ アホウドリに会いに行く
11月	長谷川 博	―絶滅の危機を救った秘策 「歌う生物学者」の隅っこ思想 「柏戸関は泣いてましたよ」 ―良きライバルとの出会い 雪に打ち勝つ
12月	本川 達雄	
2013年1月	大鵬 幸喜	
2月	綿貫 民輔	―マイナスをプラスに変える富 山人
3月	秦 郁彦	歴史家に職人精神を 製造から創造へ ―「はやぶさ」を継ぐもの
4月	川口淳一郎	
5月	梯 郁太郎	―サンブルのない世界 ―電子楽器開発五十年 ウナギの謎を追う
6月	塚本 勝巳	
7月	久里 洋二	オレ、50年早過ぎたんだ ―大人アニメの草分け 我々はまだベートーヴェンを聴 いていない
8月	小林研一郎	
9月	杉田 昭栄	カラスはスーパード鳥類
10月	横 文彦	ヒューマンなモダンリズム建築の ために
11月	松井 孝典	宇宙百三十八億年の歴史のリア リティ
12月	上田 正昭	今に生きる古代の精神 ―島国史観を超えて 地図にない山をめざす ―チンパンジーという時間 「祈る平和」から「創る平和」へ
2014年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	―折る平和
3月	北里 洋	―極限の環境で探る生命史 小蝦塩辛ベストの謎
4月	石毛 直道	―食の文化人類学者が歩いた 世界
5月	君原 健二	マラソンランナーの真の栄光と は？ ―今も走り続けるメキシ コ五輪銀メダリスト 正統派経済学の矜持 青春の登呂遺跡 ―二度の撃沈を生き延びて 誤解されているブラザ合意 ―日米通貨交渉の舞台裏 科学には女性のほうが向いて
6月	福岡 正夫	
7月	大塚 初重	
8月	内海 孚	
9月	米沢富美子	
10月	宮本 文昭	変容つづける団塊音楽家 ―オーボエ奏者から指揮者へ ソフトボールをメジャーに ―最後は自分という覚悟 「そこにあるもの」を握り続ける 昭和基地は極楽だった ―物語 ―第一次南極観測越冬隊員たち の物語 ダイオウイカとの邂逅 ザ・フォーク・クルセダーズ のあの一年間 狂言の笑いはほえみです ―重さを通り越した軽さを求 めて どこにもない建物をつくる 「年縞」は地球の遺伝子 レンガ模様のパツハの旋律 ゲーム理論は「言葉」である 日本発「ドローンOS」を世界 標準に ゾウリムシを夢中で追いかけて 国家危機管理のDNA 思索せよ、そして謙虚であれ ―大平正芳に学んだ未来への 視点 ボノボ、チンパンジー、そして ヒト――。われわれはなぜ エゴイズムを持つのだろうか もう宇宙飛行は特別じゃない ―日本は閉鎖系技術で貢献を 時代に影響されない建築をつ くる
11月	宇津木妙子	
12月	立木 義浩	
2015年1月	北村 泰一	
2月	窪寺 恒己	
3月	きたやまおさむ	
4月	野村 萬	
5月	藤森 照信	
6月	安田 喜憲	
7月	鈴木 雅明	
8月	鈴木 光男	
9月	野波 健蔵	
10月	高橋三保子	
11月	佐々 淳行	
12月	福川 伸次	
2016年1月	古市 剛史	
2月	向井 千秋	
3月	坂 茂	
4月	伊藤 隆	
5月	桂 歌丸	
6月	橋本 周司	
7月	柳沢 正史	生き物はなぜ眠るのか？ ―偶然飛び込んだ、睡眠研究の 世界 私を支えた「黒四の工事記録」 私は「フィギュアスケート普及 部」のコーチ 小鳥のさえずりにも文法がある ゴルフの極意は「体・技・心」 毛沢東の真実を突きつける 短歌は「瞬間の詩」である 「お雇われ日銀マン」の孤軍奮 闘記 ―中央アジア開発に日本 モデルのすすめ 僕は十鬼を得たい ―抜歯が語る弥生人の社会 国鉄民営化に賭けた人生 ローマ人と日本人は意外と似て いる 日本人とは何か、人間って何な んだろう 僕は「うどんこ」学者なんです ―歴史人口学で浮かび上がった 江戸時代 私が考えている平和主義 はぐれ医師がたどり着いた 「平穩死」の意味 小錦を超える 利他的な遺伝子 ―分子生物学から見た「生」と 「死」
8月	大田 弘	
9月	山田満知子	
10月	岡ノ谷 一夫	
11月	青木 功	
12月	遠藤 誉	
2017年1月	岡井 隆	
2月	田中 哲二	
3月	春成 秀爾	
4月	葛西 敬之	
5月	本村 凌二	
6月	篠田 謙一	
7月	速水 融	
8月	小倉 和夫	
9月	石飛 幸三	
10月	小錦八十吉	
11月	田沼 靖一	
12月	深町真理子	
2018年1月	豊田 有恒	
2月	竹内 敬介	
3月	野口 健	
4月	乗京 正弘	
5月	西森 秀稔	
6月	細江 英公	
7月	福田 康夫	
8月	館野 泉	

2006年1月	諏訪 元	ラミタスの犬齒 ―化石が語る人類進化の真実	10月	岡野俊一郎	ジュール・リメの後継者を探せ ―広がるサッカーの世界	2月	大貫 良夫	クントゥル・ワシ神殿の十四人面金冠
2月	木田 元	「哲学」の正体 ―ハイデガーが読みたくて全体をつかむ	11月	小松 和彦	妖怪研究は人間研究である ―見えないものに對する畏敬の念	3月	奥野 誠亮	徒党を組まず ―平城遷都千三百年、九十六歳の志
3月	畑村洋太郎	失敗学の原点と働く人たちへのメッセージ	12月	河上 民雄	「再び愚かな祖先にならないために」 鉾山のタンゴと原子力 ―研究者から経営者へ 「音楽は幻ですよ」 ―フリージャズ一直線 監察医は死者の側に立つ デカルトから野生の思考へ 上手な脳の使い方 ―サルからヒトへ広がる研究分野	4月	矢島 稔	蝶が舞う中を歩く 電子顕微鏡の写真家 ―世界でもっとも美しい科学実験
4月	檜崎弥之助	封印をひらく ―国会の爆弾男と呼ばれて	2008年1月	秋元 勇巳		5月	外村 彰	対話としての読書 同級生がくれた表彰状 ―柔道とともに生きる 私のために書いた私の童話 シベリア抑留はフィールドワーク 火星へ送った27万の名前 ―日本の「宇宙教育」の語り部 患者を見捨てない ―重粒子線治療から緩和ケアまで
5月	サトウサンペイ	漫画で描いた履歴書 ―多くの戦中・戦後史と『フジ三太郎』 物華天宝 ―光触媒をめぐる不思議な縁 ―眼のない虫の不思議 ―洞窟動物はどこから来たか？ ―二人の師に導かれた私の経済学福祉に還る ―「知事をやめてよかった」理由	2月	坂田 明		6月	外山滋比古	
6月	藤嶋 昭		3月	上野 正彦		7月	山下 泰裕	
7月	上野 俊一		4月	川田 順造		8月	松谷みよ子	
8月	伊東 光晴		5月	久保田 競		9月	加藤 九祚	
9月	浅野 史郎		6月	北川 正恭		10月	的川 泰宣	
10月	矢吹 晋		7月	マーク・ピーターセン		11月	森田 皓三	
11月	辻 真先		8月	佐川 真人		12月	アルフォンス・デーケン	
12月	武者 利光		9月	高川 真一		2011年1月	原田 泰治	
2007年1月	赤祖父俊一		10月	茅 陽一		2月	村上 和雄	
2月	三國 陽夫		11月	伊藤 修令		3月	野見山 暁治	
3月	伊藤 滋		12月	三浦雄一郎		4月	堀江 謙一	
4月	すぎやまこういち		2009年1月	野口悠紀雄		5月	石原 信雄	
5月	塩川正十郎		2月	井村 君江		6月	佐藤 安太	
6月	尾島 俊雄		3月	大隅 清治		7月	兼高 かつお	
7月	三浦 公亮		4月	遠藤 章		8月	渡辺 弘之	
8月	外山 雄三		5月	吉村絵美留		9月	吉野 彰	
9月	宮田 秀明		6月	石 弘光		10月	窪島誠一郎	
カズ・カッパから学んだこと			7月	出井 伸之		11月	中嶋 悟	
			8月	亀渕 昭信		12月	青木 保	
			9月	岩佐美代子		2012年1月	富田 勲	
			10月	高谷 好一		2月	樺山 紘一	
			11月	東 洋一		3月	谷内正太郎	
			12月	甲野 善紀		4月	小松 一憲	
				永井 一郎				

2025年	1月	南 伸坊	新しい芸術の見方という発見 「代打川藤」の勝負強さの背景 日本の「食べる」を守る・広める・つなぐ
	2月	川藤 幸三	バット1本で飯を食う
	3月	村田 吉弘	「佐久間ダム記録映画」が導いたコンクリート研究者の道
	4月	松本 明観	技術と信念で歴史を刻む 大佛師ものづくりの魂
	5月	長瀧 重義	土木技術者は地球の医者である 「佐久間ダム記録映画」が導いたコンクリート研究者の道
	6月	増田 明美	「人は前に進みたい生き物」 オリンピックでつまずいて、それでも走り続けた私の話
	7月	宮川眞喜雄	宇宙工学から転じた外交官 蝶と旅が導いた栄養疫学の世界
	8月	佐々木 敏	波が描く生命の形
	9月	近藤 滋	誰も信じなかった稿模様の謎解き アートと社会に架けた橋
	10月	小池 一子	現代に向き合い創造したオルタナティブな文化
	11月	森下 洋子	平和・真の美しさを引き出す力を信じて
	12月	荻田 知英	すべてはバレエから 電力会社の社長になった 生意気な文学青年の歩み
2024年	1月	真弓 明彦	ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する 好きな言葉は「入金」と「売上」です
	2月	谷川俊太郎	「落語と漫画と木久蔵ラーメン 詩は動いている
	3月	谷川 浩司	「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	4月	加賀美幸子	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
	5月	上野千鶴子	社会学は死ぬまでの極道 ―弱さに寄り添うエビデンスと理論を
	6月	古賀 誠	おふくろのような戦争未亡人を 再びこの国では絶対に出さない 佐渡島の連絡船から見たイルカの飛翔
	7月	宮田 亮平	「授業ボーイコット」が導いた免疫の世界
	8月	宮坂 昌之	宇宙誕生の音に耳を澄ます ラテンアメリカ文学との出会いは偶然だった ―親分肌の翻訳家が大学の学長になるまでの物語
	9月	杉山 直	十勝の牧場で決めた建設業への道と曾祖父が残した教訓
	10月	木村 榮一	「成長・進化」絶えず変化することでも人も組織も強くなる 一途に「面白主義」！
	11月	奥村太加典	新しい芸術の見方という発見 バット1本で飯を食う
	12月	久和 進	「代打川藤」の勝負強さの背景 日本の「食べる」を守る・広める・つなぐ
2023年	1月	高木 由臣	陸軍幼年学校で過ごした5カ月の思い出 「私の生命観」
	2月	梶田 隆章	神岡は私の研究人生のすべて 来ないエレベーターが結んだ縁
	3月	不死原文文	―環境循環社会の中心にセメント産業がある
	4月	井上たかひこ	水中考古学がひらく「海のタイムカプセル」
	5月	森本 敏	安全保障の仕事に一生をかける人、出でよ
	6月	宮本 雅文	山の鳴き声に耳を傾ける
	7月	鳥飼玖美子	アポロ11号月面着陸から英語教育へ
	8月	宗 猛	それでも走るのが好きだった ―三度目に掴んだオリンピックの舞台
	9月	小松 正之	日本捕鯨・タフネゴシエーターの志
	10月	石澤 良昭	アンコール・ワットをカンボジア人の手に
	11月	加藤 寛幸	―遺跡修復とグローバル人材育成
	12月	平野 レミ	僕を「国境なき医師団」に導いた二つの出会い
2022年	1月	北村 雅良	キッチンから幸せ発信
	2月	水野 和敏	僕の原点になった「竹原火力3号機」立地交渉
	3月	高村 正彦	「ミスターG.T.R」の非常識な本質
	4月	伊東 四朗	ひとの幸せの総量を増やす ―外交・安保が私のライフワーク
	5月	加藤 良三	喜劇を演じることはとても怖いんです
	6月	斎藤 成也	野球が導いた外交官の道 学問はひとつ ―ヤボネシアゲノムが解明する人類の歴史
	7月	阿刀田 高	私は小説家には向いていなかった
	8月	富野由悠季	ガンダム監督の「敗北者宣言」
	9月	妹島 和世	創造性の連続が起こる建築
	10月	土井 正博	「18歳の4番打者」が辿り着いたバッティングの極意
	11月	海部 陽介	3万年前の航海再現で迫る「人間の本当の姿」
	12月	水村 美苗	私は近代日本文学の最後に来た者
2021年	1月	水野 英子	青春のトキワ荘と私の漫画家人生
	2月	伊部 菊雄	たった一行の提案書が生んだ「GISHOCK」
	3月	吉増 剛造	詩の声に耳をすます
	4月	今野 勉	朝から晩までテレビのことを考えてきた
	5月	三宅 義信	「自分流」でつかんだ金メダル ―東京五輪に向けた1460日の挑戦
	6月	石野 良純	奇妙な繰り返し配列クリスパーの謎
	7月	阿川 尚之	人との出会い、アメリカとの出会い、憲法との出会い
	8月	三國 清三	日本人としてつくる僕のフランス料理
	9月	未唯 me	山と谷を乗り越えて、今の私がある ―「ピンク・レディー」はかけがえのない経験
	10月	片山 右京	僕はF1で得たものばかりで失ったものは何一つなかった
	11月	海輪 誠	朝の来ない夜はない
	12月	山本 勉	東日本大震災を乗り越える 運慶に会いに行く 保守政治の真髄とは何か？
2020年	1月	伊吹 文明	硬球をバットで打ったあの感触からはじまった
	2月	井手 峻	―東大野球部からドラゴンズへ 東大総長になった牛飼いの少年
	3月	佐々木 毅	政治制度改革の舞台裏 社会に役立つロボットの創造開発
	4月	広瀬 茂男	私は80歳から成長した ―「英知」という翼を持った世界最高齢プログラマー
	5月	若宮 正子	発
	6月	宇崎 竜童	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	7月	佐藤 義則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	8月	大島 理森	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	9月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	10月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
	11月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	12月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
2019年	1月	千葉 昭	「公益の心」を大切に デビュー曲は自分への応援歌だった
	2月	山本 正之	―「タイムボカン」は私の宝物 フランスより、誰も見たことのない景色を求めて
	3月	橋爪大三郎	恋と短歌とタンパク質 ―私の人生のいちばんの意味は？
	4月	片山 一道	知識と知識の隙間をなくす 「大きな社会学」のすすめ
	5月	永田 和宏	古人骨が語る声を聴く 人類学者が辿ったポリネシアの「海の道」
	6月	横尾 忠則	映画愛が背中を押した 夢を信じた20年の軌跡
	7月	佐藤 義則	我々は、答えない世界に住んでいる
	8月	大島 理森	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	9月	横尾 忠則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	10月	佐藤 義則	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	11月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	12月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
2018年	1月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	2月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	3月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
	4月	加賀美幸子	発
	5月	宇崎 竜童	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	6月	佐藤 義則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	7月	大島 理森	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	8月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	9月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
	10月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	11月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	12月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
2017年	1月	千葉 昭	「公益の心」を大切に デビュー曲は自分への応援歌だった
	2月	山本 正之	―「タイムボカン」は私の宝物 フランスより、誰も見たことのない景色を求めて
	3月	橋爪大三郎	恋と短歌とタンパク質 ―私の人生のいちばんの意味は？
	4月	片山 一道	知識と知識の隙間をなくす 「大きな社会学」のすすめ
	5月	永田 和宏	古人骨が語る声を聴く 人類学者が辿ったポリネシアの「海の道」
	6月	横尾 忠則	映画愛が背中を押した 夢を信じた20年の軌跡
	7月	佐藤 義則	我々は、答えない世界に住んでいる
	8月	大島 理森	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	9月	横尾 忠則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	10月	佐藤 義則	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	11月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	12月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
2016年	1月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	2月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	3月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
	4月	加賀美幸子	発
	5月	宇崎 竜童	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	6月	佐藤 義則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	7月	大島 理森	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	8月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	9月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
	10月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	11月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	12月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
2015年	1月	千葉 昭	「公益の心」を大切に デビュー曲は自分への応援歌だった
	2月	山本 正之	―「タイムボカン」は私の宝物 フランスより、誰も見たことのない景色を求めて
	3月	橋爪大三郎	恋と短歌とタンパク質 ―私の人生のいちばんの意味は？
	4月	片山 一道	知識と知識の隙間をなくす 「大きな社会学」のすすめ
	5月	永田 和宏	古人骨が語る声を聴く 人類学者が辿ったポリネシアの「海の道」
	6月	横尾 忠則	映画愛が背中を押した 夢を信じた20年の軌跡
	7月	佐藤 義則	我々は、答えない世界に住んでいる
	8月	大島 理森	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	9月	横尾 忠則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	10月	佐藤 義則	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	11月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	12月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
2014年	1月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	2月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	3月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
	4月	加賀美幸子	発
	5月	宇崎 竜童	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	6月	佐藤 義則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	7月	大島 理森	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	8月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	9月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
	10月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	11月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	12月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
2013年	1月	千葉 昭	「公益の心」を大切に デビュー曲は自分への応援歌だった
	2月	山本 正之	―「タイムボカン」は私の宝物 フランスより、誰も見たことのない景色を求めて
	3月	橋爪大三郎	恋と短歌とタンパク質 ―私の人生のいちばんの意味は？
	4月	片山 一道	知識と知識の隙間をなくす 「大きな社会学」のすすめ
	5月	永田 和宏	古人骨が語る声を聴く 人類学者が辿ったポリネシアの「海の道」
	6月	横尾 忠則	映画愛が背中を押した 夢を信じた20年の軌跡
	7月	佐藤 義則	我々は、答えない世界に住んでいる
	8月	大島 理森	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	9月	横尾 忠則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	10月	佐藤 義則	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	11月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	12月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
2012年	1月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	2月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	3月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
	4月	加賀美幸子	発
	5月	宇崎 竜童	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	6月	佐藤 義則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	7月	大島 理森	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	8月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	9月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
	10月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	11月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	12月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
2011年	1月	千葉 昭	「公益の心」を大切に デビュー曲は自分への応援歌だった
	2月	山本 正之	―「タイムボカン」は私の宝物 フランスより、誰も見たことのない景色を求めて
	3月	橋爪大三郎	恋と短歌とタンパク質 ―私の人生のいちばんの意味は？
	4月	片山 一道	知識と知識の隙間をなくす 「大きな社会学」のすすめ
	5月	永田 和宏	古人骨が語る声を聴く 人類学者が辿ったポリネシアの「海の道」
	6月	横尾 忠則	映画愛が背中を押した 夢を信じた20年の軌跡
	7月	佐藤 義則	我々は、答えない世界に住んでいる
	8月	大島 理森	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	9月	横尾 忠則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	10月	佐藤 義則	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	11月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	12月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
2010年	1月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	2月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	3月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
	4月	加賀美幸子	発
	5月	宇崎 竜童	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	6月	佐藤 義則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	7月	大島 理森	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	8月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	9月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
	10月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	11月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	12月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
2009年	1月	千葉 昭	「公益の心」を大切に デビュー曲は自分への応援歌だった
	2月	山本 正之	―「タイムボカン」は私の宝物 フランスより、誰も見たことのない景色を求めて
	3月	橋爪大三郎	恋と短歌とタンパク質 ―私の人生のいちばんの意味は？
	4月	片山 一道	知識と知識の隙間をなくす 「大きな社会学」のすすめ
	5月	永田 和宏	古人骨が語る声を聴く 人類学者が辿ったポリネシアの「海の道」
	6月	横尾 忠則	映画愛が背中を押した 夢を信じた20年の軌跡
	7月	佐藤 義則	我々は、答えない世界に住んでいる
	8月	大島 理森	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	9月	横尾 忠則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	10月	佐藤 義則	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	11月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	12月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
2008年	1月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	2月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	3月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
	4月	加賀美幸子	発
	5月	宇崎 竜童	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	6月	佐藤 義則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	7月	大島 理森	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	8月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	9月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
	10月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	11月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	12月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
2007年	1月	千葉 昭	「公益の心」を大切に デビュー曲は自分への応援歌だった
	2月	山本 正之	―「タイムボカン」は私の宝物 フランスより、誰も見たことのない景色を求めて
	3月	橋爪大三郎	恋と短歌とタンパク質 ―私の人生のいちばんの意味は？
	4月	片山 一道	知識と知識の隙間をなくす 「大きな社会学」のすすめ
	5月	永田 和宏	古人骨が語る声を聴く 人類学者が辿ったポリネシアの「海の道」
	6月	横尾 忠則	映画愛が背中を押した 夢を信じた20年の軌跡
	7月	佐藤 義則	我々は、答えない世界に住んでいる
	8月	大島 理森	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	9月	横尾 忠則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	10月	佐藤 義則	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	11月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	12月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展に尽力する
2006年	1月	真弓 明彦	好きな言葉は「入金」と「売上」です ―落語と漫画と木久蔵ラーメン
	2月	林家木久扇	詩は動いている 「無冠の九段」になってから見えた 将棋のおもしろさ
	3月	谷川俊太郎	どう生きようか、生きようぞ 放送人の美学
	4月	加賀美幸子	発
	5月	宇崎 竜童	「日本」の投手コーチの原点 となった一カ月の猛特訓
	6月	佐藤 義則	人間も国も生かされて生きている ―国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
	7月	大島 理森	家庭で流れたプレスリー ―ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
	8月	原 昌宏	カイゼンから生まれた「QRコード」
	9月	S A M	デイスコからトップヘ ダンスに捧げたあの日々を 北海道の発展

対話

1968年 4月	入江 徳郎	A氏と通貨不安
5月	石黒 久	A氏の不安に答えて 現代の不安について
6月	藤田 信勝	近代化への試練
7月	細川 忠雄	物価について
8月	成田 浩	効率と節度が大切
9月	古谷 綱正	利潤のゆくえ
10月	後藤 壮介	企業は社会的責任をもつ お米と経済成長
11月	梅原 一雄	経済成長と自治体 改革に勇気を
12月	江幡 秀夫	近づく過剰雇用の時代へ 対策は改革に勇気を
1969年 1月	田中 清	地域開発のビジョンを問う
2月	川瀬 秀雄	北海道三世紀へ向って
3月	鈴木 幸夫	国際経済の流動的發展に 背を向けるな
4月	大熊 弘	「自由化」を主張する
5月	中村泰治郎	経済と国民の谷間を埋めるもの
6月	原谷 敬吉	明日への問題提起を
7月	加藤 地三	傍観学生は企業でも傍観者
8月	石黒 久	企業は厳しく、しかし多様に選 択する
9月	入江 徳郎	「Z旗あげて」
10月	成田 浩	働く意志は充分ある
11月	加藤 祥二	果して未来はバラ色か
12月	後藤 壮介	未来に点火する新しい火
1970年 1月	宮本源七郎	近頃とても心配なことども
2月	田中 精一	貧しさから豊かになつて新たに 認識すること
3月	坂口 昭	産業政策への数々の疑念
4月	大慈弥嘉久	事実に基づいて解明します
5月	正田 彬	産業政策は融通無礙か？
6月	上杉 一雄	産業の構造改善と企業合併
7月	厚川 正夫	ハラを割つて真実を聞かせて下さ い／国民経済的視野での論議を
8月	澄田 智	「病める巨象」の自己診断を問う
9月	辻 謙	労働者の真の解放の道を歩む
10月	太田 薫	物価安定への決め手はなにか
11月	高内 俊一	成長策に見合う適応策の実行を
12月	齊藤倉之助	
1971年 1月	佐藤さん、はら、	をきめて中国 へ行つて下さい
2月	「総評」と「同盟」	「71年労働運動のすべて
3月	物価はこうして押える	
4月	高くなる「油」をどうする	
5月	「これからのエネルギー政策	「抵抗する市民」に「手でさわ れる政治を」
6月	「切り上げ」はきつこうなる	
7月	「環境」に対する「権利」を考 えよう	
8月	エネルギー資源はこうして擱も う	
9月	何でも話そう！「71年のすべて	
10月	「これからの産業政策	
11月	新しい局面に入つて	
12月	「これからの防衛産業を	
1972年 1月	物価への不安はほんとうに「錯 覚」なのか	
2月	経済成長の現実が物価への通俗 的危惧を否定	
3月	この政治不信をどうする	
4月	70年代をほんとの政治の季節に これで国民は幸せになれるか	
5月	「高福祉・高負担社会への展望	
6月	見せかけのGNPを裸にしよう	
7月	「ほんとの日本は二流国家	
8月	国際企業圧力とほんとに我々は 戦えるのか	
9月	「これからの防衛産業を	
10月	「これからの防衛産業を	
11月	「これからの防衛産業を	
12月	「これからの防衛産業を	
1973年 1月	「これからの防衛産業を	
2月	「これからの防衛産業を	
3月	「これからの防衛産業を	
4月	「これからの防衛産業を	
5月	「これからの防衛産業を	
6月	「これからの防衛産業を	
7月	「これからの防衛産業を	
8月	「これからの防衛産業を	
9月	「これからの防衛産業を	
10月	「これからの防衛産業を	
11月	「これからの防衛産業を	
12月	「これからの防衛産業を	
1974年 1月	「これからの防衛産業を	
2月	「これからの防衛産業を	
3月	「これからの防衛産業を	
4月	「これからの防衛産業を	
5月	「これからの防衛産業を	
6月	「これからの防衛産業を	
7月	「これからの防衛産業を	
8月	「これからの防衛産業を	
9月	「これからの防衛産業を	
10月	「これからの防衛産業を	
11月	「これからの防衛産業を	
12月	「これからの防衛産業を	
1975年 1月	「これからの防衛産業を	
2月	「これからの防衛産業を	
3月	「これからの防衛産業を	
4月	「これからの防衛産業を	
5月	「これからの防衛産業を	
6月	「これからの防衛産業を	
7月	「これからの防衛産業を	
8月	「これからの防衛産業を	
9月	「これからの防衛産業を	
10月	「これからの防衛産業を	
11月	「これからの防衛産業を	
12月	「これからの防衛産業を	
1976年 1月	「これからの防衛産業を	
2月	「これからの防衛産業を	
3月	「これからの防衛産業を	
4月	「これからの防衛産業を	
5月	「これからの防衛産業を	
6月	「これからの防衛産業を	
7月	「これからの防衛産業を	
8月	「これからの防衛産業を	
9月	「これからの防衛産業を	
10月	「これからの防衛産業を	
11月	「これからの防衛産業を	
12月	「これからの防衛産業を	
1977年 1月	「これからの防衛産業を	
2月	「これからの防衛産業を	
3月	「これからの防衛産業を	
4月	「これからの防衛産業を	
5月	「これからの防衛産業を	
6月	「これからの防衛産業を	
7月	「これからの防衛産業を	
8月	「これからの防衛産業を	
9月	「これからの防衛産業を	
10月	「これからの防衛産業を	
11月	「これからの防衛産業を	
12月	「これからの防衛産業を	
1978年 1月	「これからの防衛産業を	
2月	「これからの防衛産業を	
3月	「これからの防衛産業を	
4月	「これからの防衛産業を	
5月	「これからの防衛産業を	
6月	「これからの防衛産業を	
7月	「これからの防衛産業を	
8月	「これからの防衛産業を	
9月	「これからの防衛産業を	
10月	「これからの防衛産業を	
11月	「これからの防衛産業を	
12月	「これからの防衛産業を	

1973年 2月	福田 赳夫	「73年」を語る その②
3月	畠山 武	「73年」を語る その③
4月	矢野 絢也	「73年」を語る その④
5月	松岡 英夫	「73年」を語る その⑤
6月	飯塚繁太郎	この物価をどうする
7月	佐々木良作	「男は黙つて手をうて
8月	飯塚繁太郎	ニッポンの「ゼイキン」問答
9月	松本 善明	「しあわせは私たちのねがい
10月	桑田弘一郎	「断」――言いたい放題言わせてい
11月	西川 俊作	必殺仕置人？ 4人衆「ヒズミ
12月	山田 純二	「ゆくえ
1974年 1月	木村禮八郎	74年の「政治」を占う
2月	吉松 氏吉	この異常「高物価」に「王手
3月	倉成 正	「政党的条件」と「市民票」の
4月	小林 節夫	「政党的条件」と「市民票」の
5月	石田 博英	「政党的条件」と「市民票」の
6月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
7月	横山 利秋	「政党的条件」と「市民票」の
8月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
9月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
10月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
11月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
12月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
1975年 1月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
2月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
3月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
4月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
5月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
6月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
7月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
8月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
9月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
10月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
11月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
12月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
1976年 1月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
2月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
3月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
4月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
5月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
6月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
7月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
8月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
9月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
10月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
11月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
12月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
1977年 1月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
2月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
3月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
4月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
5月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
6月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
7月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
8月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
9月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
10月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
11月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
12月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
1978年 1月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
2月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
3月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
4月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
5月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
6月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
7月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
8月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
9月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
10月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
11月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の
12月	飯塚繁太郎	「政党的条件」と「市民票」の

1981年7月	「新しい共存」の選択 —企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レーガン「経済制裁」と日ソ貿 易の「脱皮」	関本 忠弘 原 康	12月	「危機の時代」の宰相の条 件——中曽根外交で対米・ 欧摩擦は乗り切れるか いま日本はソ連の「脅威」 になりつつある 中ソ「和解」の内幕とその後の 「世界」	斎藤 明 A・C・ハンソン M・エフィーモフ 白井 久也 魚本藤吉郎 吉田 健三 丹藤 佳紀 大月 信次 中田 章 不破 孝一 A・ジクローニ 広河路レイ 清水 学 松岡 英夫 岡野加徳留			
8月	アラブ産油国の「構造危機」と その境界点 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	3月	首相官邸レポート 政局展望・中曽根政権の「躓き 石」 イスラエルからの証言 今見えてきたパレスチナ 「共存の地平線」 「無党派時代」への不安 いま国民が「革新」に求めて いるもの	4月	「体験的」日中経済「新時代」への模 索——日本企業人の見た中国対 外開放政策 「浸食」から「崩壊」への構図 —地球表土流亡と森林死滅 の打開策 レーガン「中米・カリブ戦略」の 行方——浅田駐グアテマラ大使 と谷川中米特派員に聞く 知日派学者との対話 「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	5月	野村 清洋 石田 錠二 小田川圭甫 L・R・ブラウン 小島 慶三 浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
9月	アラブ産油国の「構造危機」と その境界点 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	6月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	7月	「東西冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米因離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を 読む——85年クロムイコ訪日の シナリオ 「太平洋の世紀」はバラ色か？ —新構想がはらむ危機と連帯 の未来 SDIイコール「スターウオー ズ」ではない——レーガン「戦 略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見 たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ	8月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
10月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	8月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	9月	「東西冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米因離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を 読む——85年クロムイコ訪日の シナリオ 「太平洋の世紀」はバラ色か？ —新構想がはらむ危機と連帯 の未来 SDIイコール「スターウオー ズ」ではない——レーガン「戦 略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見 たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ	10月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
11月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	11月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	12月	「東西冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米因離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を 読む——85年クロムイコ訪日の シナリオ 「太平洋の世紀」はバラ色か？ —新構想がはらむ危機と連帯 の未来 SDIイコール「スターウオー ズ」ではない——レーガン「戦 略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見 たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ	12月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
12月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	12月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	12月	「東西冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米因離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を 読む——85年クロムイコ訪日の シナリオ 「太平洋の世紀」はバラ色か？ —新構想がはらむ危機と連帯 の未来 SDIイコール「スターウオー ズ」ではない——レーガン「戦 略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見 たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ	12月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
1982年1月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	1982年1月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	1982年1月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	1982年1月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
2月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	2月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	2月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	2月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
3月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	3月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	3月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	3月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
4月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	4月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	4月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	4月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
5月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	5月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	5月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	5月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
6月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	6月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	6月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	6月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
7月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	7月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	7月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	7月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
8月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	8月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	8月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	8月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
9月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	9月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	9月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	9月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
10月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	10月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	10月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	10月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
11月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	11月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	11月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	11月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
12月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	12月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	12月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	12月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
1982年1月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	1982年1月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	1982年1月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	1982年1月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
2月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	2月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	2月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	2月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
3月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	3月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	3月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	3月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
4月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	4月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	4月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	4月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
5月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	5月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	5月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	5月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
6月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	6月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	6月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	6月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
7月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	7月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	7月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	7月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
8月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	8月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	8月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	8月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
9月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	9月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	9月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	9月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
10月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	10月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	10月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	10月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
11月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	11月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	11月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	11月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
12月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	12月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	12月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	12月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
1982年1月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	1982年1月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	1982年1月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	1982年1月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
2月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	2月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	2月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑を読む 保守政治のブラック・ボックス —自民党の収票メカニズムとそ の未来を分析する	2月	浅田 泰三 谷川 俊 G・R・パッカー 古森 義久 須之部量三 神谷 不二 岡野加徳留 広瀬 道貞
3月	「アラブ産油国の「構造危機」と その境界点」 レーガン氏への「不信」 と「訣別」	S・アミン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン 宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦	3月	「日米ギャップ」をどうする —米大統領選と対日経済・防衛政策 38度線「危機と共存」の回路 —朝鮮半島をめぐる米中ソの思 惑				

1977年4月	新々中国からの「伝言」 — 両角さんの北京、上海、広州 みてある記	両角 良彦 松岡 英夫 宇都宮 徳馬	9月	人間の顔をした経済をつくる — 福田経済採点簿公開 朝・毎・読論説責任者の訪中報告 鄭小平が語った日中の未来	金森 久雄 堀 昌雄 上田 健一	3月	80 USAは甦るか？ — その「復活の日」を予言 する	B・クリッシャー 川田 侃 陸井 三郎
5月	— その実像と日本とのかかわり 合いを追う 「日本への直言」	和田 春樹 石川 昌 稲葉 修	10月	日米貿易戦争の内幕 大統領の「誤算と修正」 「政治」は甦るか — 劣化から信頼への道標	岸田純之助 加藤 祥二 岸田純之助	4月	アラブ湾岸「危機」の分析 — 石油・パレスチナ・米ソ激突 「危機」の選択 — 日米 関係の未来を推論する	K・アズハリ 牟田口義郎 細見 卓
6月	— いまの世の中間違いだらけ 一九八五年ニッポンの原子 力を考える 日米経済人会議から帰って カーター経済外交の行方 アジアからニッポンへ の「直言」	山野 正登 岩佐 凱実 原 康	12月	東南アジアの内幕とニッポン を追う	R・C・エンジェル 原 康 今津 弘	5月	ドゴールの遺産と ジスカールデスタンの野望 権力の「責任」 — 多数は正義を約束するか	L・サルモン 伊藤 力司 宇都宮 徳馬
7月	殿様の勲章 政治と国民との乖離 — どうにもつながらなくなった この関係 失業二〇〇万時代のニッポン心 電図 再建への指標 国鉄は甦えるか	大野 力 柿沢 弘治 松岡 英夫 宮川 淑 大木 正吾 倉成 正 瓜生 忠夫 岡部 冬彦 佐々木 峻一 清水 潤三 江田 五月	1979年1月	東京で革新の地すべりは 止められるか 米ソの世界戦略と日本	鳥羽 俊次郎 木村 俊夫 牟田口義郎 西澤憲一郎 大堀 弘 松野 頼三 下平 正一 今津 弘	6月	病める米国の選択 — 保守への の帰還とリーガンの野心 匿名座談会「石油戦争」サバイバル — 再編の内幕、現場からの証言 ノーマア「傷だらけの山河」 — 歴史を生かす市民運動へ 「中国国防軍」の実態 — 米中軍事協力と日本の「選択」 — 中東戦争の真相を掴む — 81アラブ世界への展望	中尾 光昭 本間 長世 松岡 英夫 田中伊三次 田中伊三次 宇都宮 徳馬 L・サルモン 伊藤 力司 宇都宮 徳馬
8月	公共企業体の「神話と現実」 — 危機のなかの国民のくらし 日・米・E.C記者の「眼」 がとらえた 世界経済戦争の「内幕」 《現代官僚論》	大野 力 柿沢 弘治 松岡 英夫 宮川 淑 大木 正吾 倉成 正 瓜生 忠夫 岡部 冬彦 佐々木 峻一 清水 潤三 江田 五月	2月	政界病棟から — 体質蘇生への手がかりを探る 世界経済の「死角」を洗う — ソ連経済研究所副所長に きく O.P.E.C.、メジャーの世界戦略 の照準 — のし歩く地球の支配者 「生活都市」創造へのチャレンジ 日本病への処方箋	中山 一三 太田 薫 G・ヒールシャ 岸田純之助 陸井 三郎 法眼 普作 大木 正吾 山口 敏夫 I・オルリック 高橋 実	7月	「財政危機」からの脱出 — 増税はホントに必要か？ ソ連はいま何を狙っているか — その世界戦略の方向と実態 アメリカ一九八〇年の挫折 — 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	板橋 守邦 松田 忠雄 栗屋 敏信 本吉 庸浩 T・ベツパー 原 康 奥原 時蔵 野口悠紀雄 伊藤 圭一 今川 瑛一 江川 昌
9月	役人はハッキリものを言おう 日本は袋小路から脱出でき るか — 外国人企業家が語る 世界貿易戦争への処方箋 人間と裁判 — 司法の原点を求めて	吉瀬 維哉 松岡 英夫 原 康	3月	アメリカ一九八〇年の挫折 — 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	アブドゥルハミード 坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	4月	レーガン大統領への 「期待と不安」 — ASEAN同行三紙記者が 「内幕」を語る 日本国総理「裸の外遊記」の てんまつ いま中国で何が起きているか？ — 鄧体制をゆさぶる経済危機と 軍の動向 「新聞批判」に答える — 日本の選択とジャーナリズム の責務 イラン・イラク戦争の証言① イラクはペルシャの「拡張主 義」と戦う イラン・イラク戦争の証言② これはワシントン — バグダッドの陰謀だ！	岡部 達味 尾上 悦三 赤松 大麿 稲葉三千男 岸田純之助 アル・ジャファフ 小林 慶二 ガセム・サ イレフホウ 小林 慶二
10月	公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	4月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	5月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
11月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	5月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	6月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
12月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	6月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	7月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
1978年1月	若大将「ニッポンの興亡」に チャレンジ	清水 潤三 江田 五月 若大将「ニッポンの興亡」に チャレンジ	1981年1月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	1981年1月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
2月	公共企業体の「神話と現実」 — 危機のなかの国民のくらし 日・米・E.C記者の「眼」 がとらえた 世界経済戦争の「内幕」 《現代官僚論》	大野 力 柿沢 弘治 松岡 英夫 宮川 淑 大木 正吾 倉成 正 瓜生 忠夫 岡部 冬彦 佐々木 峻一 清水 潤三 江田 五月	2月	政界病棟から — 体質蘇生への手がかりを探る 世界経済の「死角」を洗う — ソ連経済研究所副所長に きく O.P.E.C.、メジャーの世界戦略 の照準 — のし歩く地球の支配者 「生活都市」創造へのチャレンジ 日本病への処方箋	中山 一三 太田 薫 G・ヒールシャ 岸田純之助 陸井 三郎 法眼 普作 大木 正吾 山口 敏夫 I・オルリック 高橋 実	2月	「財政危機」からの脱出 — 増税はホントに必要か？ ソ連はいま何を狙っているか — その世界戦略の方向と実態 アメリカ一九八〇年の挫折 — 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	板橋 守邦 松田 忠雄 栗屋 敏信 本吉 庸浩 T・ベツパー 原 康 奥原 時蔵 野口悠紀雄 伊藤 圭一 今川 瑛一 江川 昌
3月	役人はハッキリものを言おう 日本は袋小路から脱出でき るか — 外国人企業家が語る 世界貿易戦争への処方箋 人間と裁判 — 司法の原点を求めて	吉瀬 維哉 松岡 英夫 原 康	3月	アメリカ一九八〇年の挫折 — 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	アブドゥルハミード 坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	3月	レーガン大統領への 「期待と不安」 — ASEAN同行三紙記者が 「内幕」を語る 日本国総理「裸の外遊記」の てんまつ いま中国で何が起きているか？ — 鄧体制をゆさぶる経済危機と 軍の動向 「新聞批判」に答える — 日本の選択とジャーナリズム の責務 イラン・イラク戦争の証言① イラクはペルシャの「拡張主 義」と戦う イラン・イラク戦争の証言② これはワシントン — バグダッドの陰謀だ！	岡部 達味 尾上 悦三 赤松 大麿 稲葉三千男 岸田純之助 アル・ジャファフ 小林 慶二 ガセム・サ イレフホウ 小林 慶二
4月	公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	4月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	4月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
5月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	5月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	5月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
6月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	6月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	6月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
7月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	7月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	7月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
8月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	8月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	8月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
9月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	9月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	9月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
10月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	10月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	10月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
11月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	11月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	11月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二
12月	— 公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	高木 文雄 両角 良彦 江幡 清 K・デリバス 高橋 実	12月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清	12月	— 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	小林 慶二

1989年9月	顕いた消費税と国民の選択 ―廃止か見直し?― 税制改革を考へる	本間 正明 早房 長治	12月	欧州「不戦宣言」と湾岸危機の読み方 ―冷戦後の国際安全保障を考へる エシニコル駐日大使に直撃インタビュー ―イスラエルは湾岸危機にどう対応するの?― 裏切られたベレストロイカ? ゴルバチョフの「変質」とその行方 P.L.O駐日代表に湾岸戦争とパレスチナ人の真意を聞く ―それでも平和的解決は可能だった ゴルバチョフ来日とアジアの安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	進藤 榮一 林 雄一郎 清水 学	2月	いまのエリツインは、潜水病だ! ―価格自由化後のC.I.Sの現状 「バイ・アメリカン」は独走できない! ―不況下の大統領選と日米関係を考へる 21世紀へのパスポートを持たない政治 ―スキヤンダル、政治改革、政界再編を考へる 分水嶺に立つ「地球環境」 ―人類は21世紀に生き残れるか 日本の「国際貢献」とは何か ―世界的地殻変動の中で日米の政治を考へる ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	A・マルイシエワ N・ツウエトコフ 木村 晃三 伊藤 隆敏 岡部 直明 岡野加徳留 島 脩 石 弘之 寺西 俊一 G・カーチス 原 康 矢吹 晋 小竹 一影 今井 隆吉 鴨 武彦 岩見 隆夫 佐々木 毅 L・デリユーシン 木村 浩 新藤 宗幸 石上 大和 N・エシニコル 立山 良司 J・P・レング 柿澤 弘治 浅井 基文 村上 吉男 G・S・フクシマ 黒田 眞 徳永 彰作 柴 宜弘
1990年1月	21世紀の「世界秩序」と日本の針路 「ポスト冷戦」の時代を読む	鴨 武彦 村上 吉男	4月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	秋野 豊 中澤 孝之 石川 真澄 佐々木 毅 川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	7月	ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智
2月	ゴルバチョフの「闘争」と「誤算」 ―ペレストロイカと民族問題の行方を読む 政治の「ブラック・ホール」を探る	西村 文夫 木村 晃三 岡野加徳留 国正 武重	5月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	秋野 豊 中澤 孝之 石川 真澄 佐々木 毅 川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	8月	ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智
3月	政治の「ブラック・ホール」を探る	岡野加徳留 国正 武重	6月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	9月	ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智
4月	「日米構造協議」で何が問われているか? シジフォスの苦役 から逃れられない日本人 現地で見た天安門事件 「長老たちの中国」が「変わる日」 「協調の時代」の世界を読む ―冷戦の終わりとアジアのゆくえ アジアの「冷戦」はほんとに終わるか? ―韓ソ首脳会談と北朝鮮の動向を分析する どこへ行く? ベレストロイカ ―イスベスチャ記者が語る「S.アガフオーノフ経済・民族の現状と未来」 中東危機は世界を変えるか? ―イスラム・パワーに火をつけたクウェート紛争のゆくえ 北朝鮮は本当に変わったのか? ―動き始めた「日朝正常化」の今後を探る	岸本 重陳 寫 信彦 小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智	10月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	11月	ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智
5月	「長老たちの中国」が「変わる日」 「協調の時代」の世界を読む ―冷戦の終わりとアジアのゆくえ アジアの「冷戦」はほんとに終わるか? ―韓ソ首脳会談と北朝鮮の動向を分析する どこへ行く? ベレストロイカ ―イスベスチャ記者が語る「S.アガフオーノフ経済・民族の現状と未来」 中東危機は世界を変えるか? ―イスラム・パワーに火をつけたクウェート紛争のゆくえ 北朝鮮は本当に変わったのか? ―動き始めた「日朝正常化」の今後を探る	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智	6月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	7月	ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智
6月	「長老たちの中国」が「変わる日」 「協調の時代」の世界を読む ―冷戦の終わりとアジアのゆくえ アジアの「冷戦」はほんとに終わるか? ―韓ソ首脳会談と北朝鮮の動向を分析する どこへ行く? ベレストロイカ ―イスベスチャ記者が語る「S.アガフオーノフ経済・民族の現状と未来」 中東危機は世界を変えるか? ―イスラム・パワーに火をつけたクウェート紛争のゆくえ 北朝鮮は本当に変わったのか? ―動き始めた「日朝正常化」の今後を探る	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智	7月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	8月	ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智
7月	アジアの「冷戦」はほんとに終わるか? ―韓ソ首脳会談と北朝鮮の動向を分析する どこへ行く? ベレストロイカ ―イスベスチャ記者が語る「S.アガフオーノフ経済・民族の現状と未来」 中東危機は世界を変えるか? ―イスラム・パワーに火をつけたクウェート紛争のゆくえ 北朝鮮は本当に変わったのか? ―動き始めた「日朝正常化」の今後を探る	秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智	8月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	9月	ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智
8月	イスベスチャ記者が語る「S.アガフオーノフ経済・民族の現状と未来」 中東危機は世界を変えるか? ―イスラム・パワーに火をつけたクウェート紛争のゆくえ 北朝鮮は本当に変わったのか? ―動き始めた「日朝正常化」の今後を探る	鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智	10月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	11月	ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智
9月	中東危機は世界を変えるか? ―イスラム・パワーに火をつけたクウェート紛争のゆくえ 北朝鮮は本当に変わったのか? ―動き始めた「日朝正常化」の今後を探る	岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智	11月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	12月	ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを考へる 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考へる 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシン教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 21世紀の国際関係への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 人道的介入は世界に秩序をもたらすか? ―地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かなク! ―米新政権の対日通商政策を読む 甦った「民族主義」の亡霊 ―ユーゴスラビア内戦の深層を分析する	小竹 一彰 高井 潔司 進藤 榮一 中馬 清福 秋野 豊 伊豆見 元 鈴木 康雄 鈴木 アガフオーノフ 岡倉 徹志 最首 公司 小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智
10月	北朝鮮は本当に変わったのか? ―動き始めた「日朝正常化」の今後を探る	小此木政夫 前田 康博 森本 忠夫 高山 智	12月	安全保障 ―四島返還よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲がり、「政治」が死んだ。最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考へる 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考へる 中東の歴史は変わるか? ―ムードの中の「和平会議」を考へる 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ―国際社会の激変の中で日米関係を考へる T.R.リード 進藤 榮一	川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊	1992年1月	「独立国家共同体」の命運を読む ―旧ソ連邦で進行する「五つの危機」	木村 汎 森本 良男
11月	ベレストロイカが失敗したら何が起きるか ―ソ連の「市場経済移行計画」を検証する	森本 忠夫 高山 智	1992年1月	「独立国家共同体」の命運を読む ―旧ソ連邦で進行する「五つの危機」	木村 汎 森本 良男	4月	「独立国家共同体」の命運を読む ―旧ソ連邦で進行する「五つの危機」	徳永 彰作 柴 宜弘

[illegible]

1997年11月	日口関係の「新たな方程式」K・Oサルキソフ	橋田 茂樹	4月	科学技術は地球を救えるか？ ―21世紀の社会・環境・人口問題を考える	橋爪大三郎 米本 昌平	11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運 ―迷えるアメリカのゆくえ ―米大統領選と21世紀のアジアの安全保障 ―未来を創造するのが政治である	塩崎 恭久 山岡 邦彦 近藤 剛 春名 幹男	1997年12月	朝鮮半島情勢の新展開を読む	伊豆見 元 山岡 邦彦	5月	21世紀の米・中・日関係への視点 権力闘争はエリツインの強壮剤？ 税は「この国のかたち」	佐藤 嘉恭 田中 明彦 渡邊 幸治 林 義郎 竹中 平蔵	2月	舵は逆に切られた ―金融システム危機への処方箋 春闘はグローバル・スタンダード？ アメリカ一極支配の幻想	鷲尾 悦也 五十嵐 武士 寺島 実郎	3月	21世紀の日口関係への提言K・Oサルキソフ	清家 篤 寺島 実郎	4月	この五年間の政治は不毛だった ―連立政権の功罪と21世紀への提言 21世紀の地球・人類・文明を考える	秋野 豊 田中 秀征 早野 透	5月	現場記者が見た 小淵総裁誕生の舞台裏十五日間	赤座 弘一 小松 浩	8月	市場は中立公正な政治を求めている ―小淵内閣への期待と懸念 社会保障制度を北欧に学ぶ ―22世紀―を見据えたスウェーデン 自治体の財政はなぜ破綻したか？ ―改革と再建への緊急処方箋 米国は「日本復活」を期待している ―日米関係のカギ握る経済政策 今そこにあるニーズを探れ！ ―初心を忘れた日本企業と「勝ち組の法則」 21世紀日本の「柔らかな選択肢」 ―外交・安保・危機管理を考える 政治は日本経済を救えるか？	岩國 哲人 水谷 研治 近藤 剛 佐々木 毅 島田 晴雄 片山 修 小川 和久 寺島 実郎	9月	塩崎 恭久 R・A・フェルドマン	3月	2000年1月	21世紀の日本の戦略 ―新たなメイド・イン・ジャパン神話を求めて 駐日ロシア大使との対話 新大統領と日口関係のゆくえ ―政治―はこれでよいのか ―巨大与党と野党不在の病理 政治は「地方」から変わる ―「この国のかたち」の原点へ 日本列島に人類が立った日 ―秩父原人の驚くべき精神文化 風格ある政治家がいなくなった いま問われるリーダーの資質 朝鮮半島が動いた！ ―55年目の南北首脳会談の意味 ぼくらの教育論 ―生きる力―つて何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命 ―清潔ニッポン―への警鐘 ―無菌環境が人類を減ぼす	A・パノフ 袴田 茂樹 岡野加穂留 北川 正恭 水木 楊 尾本 恵市 小林 達雄 椎名 素夫 岩見 隆夫 小此木政夫 鈴木 典幸 安野 光雅 池田 清彦 金森 修	2月	2002年1月	「小泉改革」の出口なきトンネル ―現状認識にタイムラグがあり過ぎる ―小泉流改革―は貫けるか？ ―問われる未来志向の政治構想力 デフレ対策なくして構造改革P・シェアードなし ―小泉政権は日銀との政策協調を急げ ―市民力―をつけよう！ ―成熟社会のための処方箋 学者はなぜ騙されたのか？ ―旧石器ねつ造事件の深層 二〇〇二年アメリカの政治と経済 ―国際社会vsテロの戦いに終わりはない 読売「毎日」時事 経済部長鼎談 小泉内閣の経済政策を検証する	金子 勝 植草 一秀 田中 秀征 早野 透 岩田規久男 米原 万里 辻元 清美 尾本 達雄 近藤 剛 山岡 邦彦 望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小林 節 岸井 成格	3月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る・眞紀子の逆襲―	3月
----------	-----------------------	-------	----	---------------------------------------	----------------	-----	---	---------------------------------	----------	---------------	----------------	----	--	--	----	---	--------------------------	----	-----------------------	---------------	----	--	-----------------------	----	---------------------------	---------------	----	--	--	----	---------------------	----	---------	--	--	----	---------	---	--	----	-------------------------------	----

1993年5月	「地方分権」が日本を変える ―知事が語る「政治改革」への戦略	長野 士郎 平松 守彦 川島 正英	8月	混沌の中に明かりが見えてきた？伊藤 ―政界再編の「第三の波」と21世紀の政治 ルワンダ現地報告と大量虐殺の深層	伊藤 茂 奥田 敬和 中村 啓三
6月	北朝鮮はどこへ行くか？ 日本は最悪のシナリオに備えよ 真の「政治改革」は摩擦を R・C・エンジェル 解消する！ ―分水嶺に立った「外在依存国家」の命運	伊豆見 元 関川 夏央 R・C・エンジェル 康	9月	金正日・北朝鮮はどこへゆく？ ―安定の条件と危機のシナリオ 日本の安全保障政策の「盲点」 ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？ アメリカは「弧立主義」へ向かっている ―民主党政大敗の分折とこれからの日米関係 ―日本型雇用「は環境不適合！」	佐藤 信一 伊豆見 元 重村 智計 相原 宏徳 小川 和久
7月			10月		
8月	「政治」はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや「変革」のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 「九月十三日」から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チエコ大使に聞く 「抑圧」から解かれ、いま溢れるチエコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の「歪み」を糾す 日本の「コメ」は救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が「最大のハードル」になる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は「国連心中主義」を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに「理工系離れ」なのか？ ―「科学の心」を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイト・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は「ジュラシック・R・C・エンジェルパーク」？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	12月	五十嵐 武士 近藤 剛	
9月			1995年1月		
10月		立山 良司 池田 明史	2月	エリツインの歴史的使命は終わった？ ―ポスト鄧小平「の中国を読む」 「チベット問題」の知られざるベマ・ギャルボ 21世紀のグラント・ストラテジ Iを求めて 宗教にアクセスする法を忘れた日本人 ビジョンなき政治に「喝」を入れる！ 日本の長寿は決して誇りにならない ―「終末期医療」の先端で考える医の心 「ベトナム市場」の幻想と素顔	岡田 任弘 岡田 茂樹 浜崎 紘一 矢吹 晋 伊藤 正 田所 竹彦 諸井 虔 猪口 邦子 竹内 宏 ひろさちや 梶山 静六 岩見 隆夫 日野原 重明 柳田 邦男
11月		J・ヴィンケル ヘーフエル 山崎 博康 八田 達夫 落合 博実 森島 賢 唯是 康彦	3月		
12月			4月		
1994年1月			5月		
2月		平田 昌弘 高井 潔司	6月		
3月		鴨 武彦 最上 敏樹	7月		
4月		坂内富士男 池上 徹彦	8月		
5月		G・S・フクシマ 寫 信彦	9月		
6月		吉川 弘之 牛尾 治朗	10月		
7月			11月		
			12月		
			1996年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			1997年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			1998年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			1999年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2000年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2001年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2002年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2003年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2004年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2005年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2006年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2007年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2008年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2009年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2010年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2011年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2012年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2013年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2014年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2015年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2016年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2017年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2018年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2019年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2020年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2021年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2022年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2023年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
			6月		
			7月		
			8月		
			9月		
			10月		
			11月		
			12月		
			2024年1月		
			2月		
			3月		
			4月		
			5月		
</					

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2016年9月	3万年前の航海を再現 ヒトは日本列島にどうやって来たか	海部 陽介 関野 吉晴	5月	トランプ政権とイラン・アフガニスタン・インドの海洋戦略 2020年東京五輪に向けた日本の危機管理の課題 「自分ファースト」化する世界のゆくえ	鈴木 均 青木 健太 小川 和久 河本 志朗 鈴木 一人 遠藤 乾 池内 恵	2020年1月	人類学が迫る 日本人の起源	篠田 謙一 川端 裕人 松井 孝治 清水 真人 田中浩一郎 池内 恵
10月	独裁国家の仕組み	武内 宏樹	6月			2月	①「ポスト安倍」の条件 ②強い首相の時代は続いたのか ③米イラン危機から見てきた新しい戦争のかたち	
11月	アメリカと中国のはざまで ―ロシア・トルコ・インド・アフガンの戦略	笠井 亮平 鶴見 直人 長谷 直哉	7月			3月	「毒」から考える歴史・進化・新薬	船山 信次 垂水 雄二 会田 恒雄 渡部 弘維 黒越 誠治 安藤 健介
12月	人口減少下でいかに経済成長するか	飯田 泰之 西川 賢 古賀 光生	8月	地方創生でいま何が起きているか トランプの貿易戦争の先にあるもの アジアの発展と国際政治	山下 祐介 貞包 英之 篠崎 尚之 吉崎 達彦 中尾 武彦 大場 三枝 葛西 敬之 三浦 瑠麗	4月	新型コロナウイルス危機と米大統領選挙・世界秩序の行方 水河期世代×起業×地方	八田 博人 福島 良典 宇野 重規 梶谷 懐 兼原 信克 白鳥潤一郎 待鳥 聡史 清水唯一朗 善教 将大 大野 元裕 熊谷 俊人 豊田 正和 牧原 出 中山 俊宏 森 聡 牧島かれん 小林 史明 川口 大司 山口慎太郎 忽那 賢志 落合 陽一 大庭 三枝 吉原 真里 川上 桃子
2017年1月	分断される社会と世界のゆくえ	川渕 孝一	9月	平成の30年間はという時代だったのか ―改めて考える日本の安全保障の基軸 変わるエネルギーのかたちとブロックチェーン技術 中国「デジタル・イノベーション」の実力 言葉の起源を探る ―トリのさえずりとテナガザルのソプラノ ロシアの「北極圏開発」戦略	江田 健二 大場 紀章 伊藤 亜聖 高口 康太 岡ノ谷一夫 香田 啓貴	5月	イタリアから考える民主主義の次の姿 コロナ禍で問い直される「国家」と「個人」 戦後75年の日本外交を振り返る あらためて平成の政治改革を考える	
2月	トランプ政権と米中関係	佐橋 亮	10月			6月		
3月	少子高齢化社会の医療のあり方 ―これからの改革はトレードオフになる	上 昌広	11月			7月		
4月	政治家の役割とは何か？	小野寺五典 玉木雄一郎 早野 龍五 開利 博	12月			8月		
5月	3・11で問われた学問、専門知の役割	都甲 幸治	2月			9月		
6月	「隠れて生きるものは、よく生きる」	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田ひかる 小松 正之 片野 歩 月本 昭男 長谷川修一 奈良岡聰智 清水唯一朗 境家 史郎 前田健太郎 村上 朋子 渡邊 理絵 渡辺 努 早川 英男	3月			10月		
7月	翻訳という仕事の礼儀作法 中国の宇宙開発に見る新たなグレートゲーム ―日本が直面する課題 インフラ老朽化問題から構想する新しい暮らし方 生命の起源		4月	グローバル化をダラスから考える 「令和」時代の立憲君主制	セルゲイ・ロギン ユリー・シエルバニン コンスタンチン・シモノフ 永田 理 武内 宏樹 君塚 直隆 待鳥 聡史 西成 活裕 有馬 朱美 土屋 大洋 鈴木 一人 谷口 智彦 金子 将史 木村 幹 川島 真 河野 克俊 山田 吉彦 小嶋華津子 倉田 徹 竹中 正治 会田 卓司	11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2021年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2018年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2021年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2019年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2021年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2020年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2021年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2021年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2021年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2022年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2022年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2023年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2023年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2024年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2024年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2025年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2025年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2026年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2026年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2027年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2027年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2028年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2028年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2029年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2029年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2030年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2030年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2031年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2031年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2032年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2032年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2033年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2033年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2034年1月			10月			5月		
2月			11月			6月		
3月			12月			7月		
4月			1月			8月		
5月			2月			9月		
6月			3月			10月		
7月			4月			11月		
8月			5月			12月		
9月			6月			2034年1月		
10月			7月			2月		
11月			8月			3月		
12月			9月			4月		
2035年1月			10月					

2011年6月	「非常時」の経済学 ―復興議論に冷静さを	橋本 俊昭	4月	「アラブの春」で何が変わったか	田中浩一郎	2015年1月	人類七〇〇万年の道のり そして、ホモ・サピエンスだ けが残った	海部 陽介 河合 信和
7月	転換点迎えた米国の中東政策	飯田 泰之 久保 文明	5月	経済思想は循環する	池内 恵 小金 芳弘	2月	中国経済の「新常态」を考える ―「アジアインフラ投資銀行」 創設の背景	波多野淳彦 高原 明生
8月	北朝鮮経済の深層	李 燦雨 三村 光弘	6月	見えてきた金正恩政権	山岡 邦彦 伊豆見 元	3月	ユーロリスクに潜む「ドイツ問 題」	唐鎌 大輔 三好 範英
9月	サイバー戦争と日本の危機管理	岸 和久 博幸	7月	欧州「新右翼政党」の研究 ―なぜリベラリズムが排外主義 に転じるのか	池内 恵 水島 治郎	4月	空き家問題が語り掛けている もの	牧野 知弘 難波 功士
10月	主権を封印した日本外交 ―ロシアのねらいと東アジア情勢	岸田 博幸 三岡 邦彦	8月	エジプト争乱 見えなくなった国際秩序	細谷 雄一 池内 恵	5月	A I I Bとアメリカの対中政策	武者 陵司 渡部 恒雄
11月	基軸通貨はなくなる？	三岡 陽夫 大崎 明子	9月	街並みの論理	山崎 亮 茅原 郁生	6月	B S L 4施設は国防である ―日本の感染症研究の実情	河岡 義裕 安田 二朗
12月	米国後の世界のリーダーシップ	細谷 雄一 中山 俊宏	10月	中国人民解放軍の真実	高原 明生 遠藤 乾	7月	「爆食」中国と世界の食糧問題	村田 興文 柯 隆
2012年1月	宇宙政策は国家の「名刺」	鈴木 一人 松浦 晋也	11月	マルチの海を泳ぐ欧州人 ―E Uの「規制力」の源泉を探る	鈴木 一人 久保 文明	8月	原油価格「下落」の背景 ―イラン・I S・サウジアラ ビア	岩瀬 紀章 大場 昇
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か？	五味 洋治 李 相哲	12月	それでもアメリカの成長は続く ―E Uの「規制力」の源泉を探る	佐治 晴夫 小林慶一郎	9月	イギリス経済のいまを検証する ―E Uからの離脱はあり得る のか？	吉田健一郎 加藤 出
3月	アラブに「春」は来たのか？	私市 正年 武者 陵司	2014年1月	なぜボイジャーに パッパが積まれているのか？	岡田 晴生 平岩 俊司	10月	クリミア、シリア、北方領土 プーチン・ロシアの外交を読む	下斗米伸夫 廣瀬 陽子
4月	悲観論とたたかう 日本経済復活の道	若田部昌澄 阿古 智子	2月	金正恩体制の本当の姿	美甘 徹 小峰 隆夫	11月	人工知能進化論 ディープラーニングが拓く新た な地平	松尾 豊 橋爪大三郎
5月	中国の失われた十年	池田 明史 池内 恵	3月	農業はだれのものか？	若田部昌澄 廣瀬 陽子	12月	政治の「再生産ストーリー」を 超えて	待鳥 聡史 池内 恵
6月	2050年のアジアを読む	黒田 東彦 白石 隆	4月	消費税増税と景気 ―「第三の矢」は何を狙うべきか 日・中・ロをめぐる	小峰 隆夫 若田部昌澄	2016年1月	いまのアメリカの文学から見る アメリカのいま	都甲 幸治 岩瀬 昇
7月	「二つの錨」がはずれた中東	池田 明史 池内 恵	5月	ユーラシア地政学	中山 俊宏 倉本 憲一	2月	サウジアラビアで何が起きてい るか	須藤 繁 高井 裕之
8月	委縮する政治 ―日本の新たな分断線 改めて中国共産党を考える	待鳥 聡史 砂原 庸介	6月	日米同盟を本気で考える	中山 俊宏 倉本 憲一	3月	世界経済危機 中国ではなく足元を見よ	中山 裕之 会田 弘継
9月	路上商人と難民から考える 「人間の安全保障」	鈴木 隆 阿部 俊哉	7月	中国の軍事力 ―軍事学を忘れた日本人	小川 和久 岡田 聡生	4月	トラップ現象の底流	三好 範英 板橋 拓己
10月	i P Sの「次の壁」	米本 昌平 金森 修	8月	第一次世界大戦と私たちの今	伊藤 崇子 廣瀬 辰智	5月	「もう一つの選択肢」で揺らぐ ドイツ	林 景一 坂山智香子
11月	サプライズの国のオバマ	渡部 恒雄 中山 俊宏	9月	モディ首相でインドは変わる のか？	池内 恵 山形 浩生	6月	食の安全とリスクを考える	池本 大輔 石破 茂
12月	東アジアの国際秩序 ―中国とどう向き合うべきか？ それでもE Uは存続する	奈良岡聰智 渡邊 啓賢	10月	「イスラーム国」に集まる人々	白戸 圭一 萱野 稔人	7月	英国のE U離脱と政治の劣化	三浦 瑠麗
2013年1月	東アジアの国際秩序 ―中国とどう向き合うべきか？ それでもE Uは存続する	奈良岡聰智 渡邊 啓賢	11月	サブサハラ・アフリカから考える 「国家の役割」とは何か	久保 文明 宮家 邦彦	8月	政治はいま何を語るべきか	
2月	―中国とどう向き合うべきか？ それでもE Uは存続する	梅本 逸郎 中原 伸之	12月	残されたオバマの二年間				
3月	日銀はどこへ行くか？	窪園 博俊						

